

岩手県における乳用牛群検定成績のまとめ

～令和6年度～

令和8年7月

岩手県農林水産部畜産課

ま え が き

本県の酪農は、飼養戸数が 650 戸（全国第 2 位）、乳牛の飼養頭数が 37,600 頭（全国第 4 位）と全国上位に位置している一方、一戸当たりの飼養規模は 57.8 頭（全国第 34 位）と全国平均（114.4 頭）と比べ、小規模経営体が多い状況となっています（農林水産省「畜産統計」令和 7 年 2 月 1 日現在）。

酪農経営体は、飼料価格等の高止まりなど厳しい経営環境に置かれているほか、担い手の減少・高齢化など、様々な課題に直面しています。本県が酪農の主産地として持続的に発展していくためには、生産性や経営力の向上による収益力の強化を図り、足腰の強い経営体を育成することが重要です。

県では、酪農経営体の生産性向上に向け、県内 10 地域に関係機関・団体で構成する「いわて酪農の郷サポートチーム」による牛群検定データを活用した飼養管理の改善などの指導を行っています。

本県における牛群検定は、令和 6 年度実績で加入頭数は 15,917 頭（令和 7 年 3 月末時点）と県内乳用牛の約 70%を占め、また、検定組合単位に A T 検定法の導入により検定員業務の効率化も図られ、牛群検定の取組が着実に浸透し、生産性向上に大きく寄与しているところです。

令和 6 年度は、令和 5 年度に引き続き全国的に夏の平均気温が高く、暑熱ストレスなどによる夏場の乳量低下の影響で、県平均の 305 日乳量は 9,674kg となっており、暑熱の影響が比較的小さかった令和 4 年度に比べ 115kg 減少していることから、暑熱対策の重要性が改めて示唆されました。

本書は、畜産研究所（乳用牛群検定情報分析センター）を中心に、令和 6 年度の乳用牛群検定成績について、検定組合毎に取りまとめたものであり、個々の酪農経営体はもとより、地域全体の酪農の発展に向け、毎月の検定成績表と併せて活用していただくようお願いします。

令和 8 年 7 月

岩手県農林水産部畜産課
総括課長 高橋 真紀

目次

まえがき

岩手県における乳用牛群検定成績

1	岩手県における乳用牛群検定成績 令和6年度成績概要	
(1)	検定農家戸数、検定頭数	1
(2)	乳量と乳成分	1
(3)	繁殖成績	1
(4)	除籍率とその理由	1
2	飼養管理技術の向上と発揮に向けて	
(1)	岩手県における酪農の現状	2
(2)	繁殖管理と飼養管理の徹底による乳量の向上	
(3)	暑熱対策	2
3	乳用牛群検定実施状況	4
4	検定終了牛の305日検定成績	
(1)	検定実施頭数	7
(2)	305日乳量	8
(3)	乳量階層別頭数	9
(4)	産次別補正乳量	11
(5)	乳成分	16
5	検定実施牛の月別検定成績	
(1)	乳量階層別頭数割合と平均日乳量	17
(2)	乳脂率の階層別頭数割合と平均乳脂率	20
(3)	乳蛋白質率の階層別頭数割合と平均乳蛋白質率	23
(4)	無脂固形分率の階層別頭数割合と平均無脂固形分率	26
(5)	乳中尿素態窒素(MUN)の階層別頭数割合と平均MUN	29
(6)	体細胞数の階層別頭数割合と平均体細胞数	32
(7)	繁殖に関する成績	35
(8)	除籍率とその理由	39

岩手県における乳用牛群検定成績

1 岩手県における乳用牛群検定成績 令和6年度成績概要

(1) 検定農家戸数と検定頭数

検定戸数は318戸と前年度を22戸下回り、検定頭数も15,917頭と前年度を692頭下回ったが、1戸あたり検定頭数は50.1頭と前年度より1.2頭増加した(p4表1)。

全国平均と比べ、検定農家比率は3.1ポイント低い(全国53.7%、県50.6%)が、検定頭数比率は8.2ポイント高い(同60.1%、68.3%)状況であった(p4図3)。

(2) 乳量と乳成分

305日乳量の県平均は、9,674kgと前年度を15kg上回ったが、全国平均(9,765kg)より低く、その差は91kgであった(p7図7)。

305日乳量の検定組合間差は、最大で2,836kgであった。また、20検定組合のうち、305日乳量11,000kg以上の頭数割合が50%を超えている組合は7つある一方、30%未満の組合も7つあり、組合間の差が大きかった(p7図8、p8図9)。

産次別の72か月齢補正乳量は、2産次で11,148kgと最も多く、その後産次を重ねるごとに減少傾向にあった(p11図13、p12表5)。

県平均の乳脂率、乳蛋白質率及び無脂乳固形分率は、それぞれ3.97%、3.32%、8.77%とおおむね適正範囲内であり、全国と比べて乳脂率(全国3.98%)、乳蛋白質率(同3.34%)及び無脂乳固形分率(同8.80%)ともやや低かった。(p15図14)。

月別で見ると、乳脂率は6～9月、乳蛋白質率は5～9月、無脂乳固形分率は7～9月に低い傾向にあった(p19～27、図19～27)。

体細胞数は176千個/mlと全国平均(209千個/ml)より少なく、リニアスコア5以上が13%であった(p32図33)。

(3) 繁殖成績

平均産次は2.2産、平均授精回数は2.3回と前年度と同じであり、平均空胎日数も170日と前年度と変わらず、全国平均(152日)より18日長かった(p6表2、p34表8)。

平均初回授精日数は106日で前年度と同数値であり、全国平均(93日)より13日長かった。全国平均よりも繁殖成績が劣る一方、初回授精時検定乳量が36kgを超える検定組合において、初回授精受胎率が40%を超える優良事例もあった(p36図35、図36)。

月別の分娩頭数は、4～6月が他の月に比べて少なかった(p37表9)。

(4) 除籍率とその理由

平均除籍率は13.1%で、7産までは産次を追うごとに増加した。検定組合別の経産牛除籍率は、1.2%から36.7%と差が大きく、除籍理由のうち、死亡や疾病が30%を超える組合があった(p38表10、p39図38)。

2 産乳能力の向上と発揮に向けて

(1) 岩手県における酪農の現状

本県における乳用牛の飼養戸数及び生乳生産量は減少傾向にある一方、乳価は上昇傾向にある（p3 図1）。引き続き、生産性や経営力の向上による収益力の強化を図るとともに、安全で安心な生乳の生産により、消費者から信頼される産地づくりに取り組む必要がある。

(2) 繁殖管理と飼養管理の徹底による乳量の向上

酪農経営の持続的発展のためには、①乳牛の改良による個体能力の向上、②個体能力を引き出す飼養管理技術、③繁殖管理の徹底の3項目が重要である。

乳量の多い検定組合は、1戸当たり経産牛頭数が多い傾向にあり、より多くの後継牛候補が得られていると考えられる。

また、大規模酪農家や TMR センターがあり自給飼料確保に積極的な地域、初回授精日数と空胎日数が短い地域において、乳量が高い傾向がみられた。安定的な飼料給与と優れた繁殖管理が高い乳量につながっているものと考えられる。

(3) 暑熱対策

令和6年度は、全国的に夏の平均気温が観測史上最高を記録した令和5年度に引き続き、暑い年であった。搾乳牛のストレス指標である温湿度指数（THI）は、7月上旬から9月上旬まで72を超え、およそ2か月半にわたり搾乳牛にストレスがかかっていたことを示している（p3 図2）。今後も暑い夏が予想されることから、換気システムの導入や屋根・壁からの輻射熱の遮断、新鮮な飲用水の確保、換気が十分確保できる場合は細霧システムを導入するなど、牛舎環境面の暑熱対策を複数組み合わせることで搾乳牛のストレスを軽減することが必須である。日中の THI を下げることが難しい場合は、夜間の THI を下げることで乳量減少を抑えることができることから、換気システムは夜間も含め常時稼働した方が良い。

全県の検定月別の分娩頭数は、4、5、6月が1,000頭未満と他の月に比べて少なく、前年8月頃の受胎頭数が少なかったことが分かる（p37 表9）。これは、暑熱の影響によりエネルギー不足となり卵巢機能が低下し発情が不明瞭、発情持続時間が短いなど、授精の妨げとなる状態になりやすく、また受精を実施しても体温上昇により着床に至らないなどが要因と考えられる。代わりに10月～11月に授精回数が多くなったが、この時期に受胎した搾乳牛は翌年の暑熱時に分娩を迎えることとなり、暑熱と分娩ストレスが重なって乳量が低下する傾向にある（令和5年度岩手県農業研究センター試験研究成果「岩手県の乳用牛における分娩月の違いが産乳性に及ぼす影響」、P35 図34）。泌乳には多くのエネルギーを必要とする一方、乳牛は生理的に体熱を発散しづらいため、暑熱ストレスへの生理的反応はエネルギー産生を抑制的に行うこととなり、乳量の低下につながる。乾物摂取量が低下しても栄養が充足するような飼料のエネルギー濃度を高めるなどの栄養管理を行い、受精卵移植を活用するなどして、暑熱時の授精を安易に避けることがないように繁殖管理をすることが肝要である。

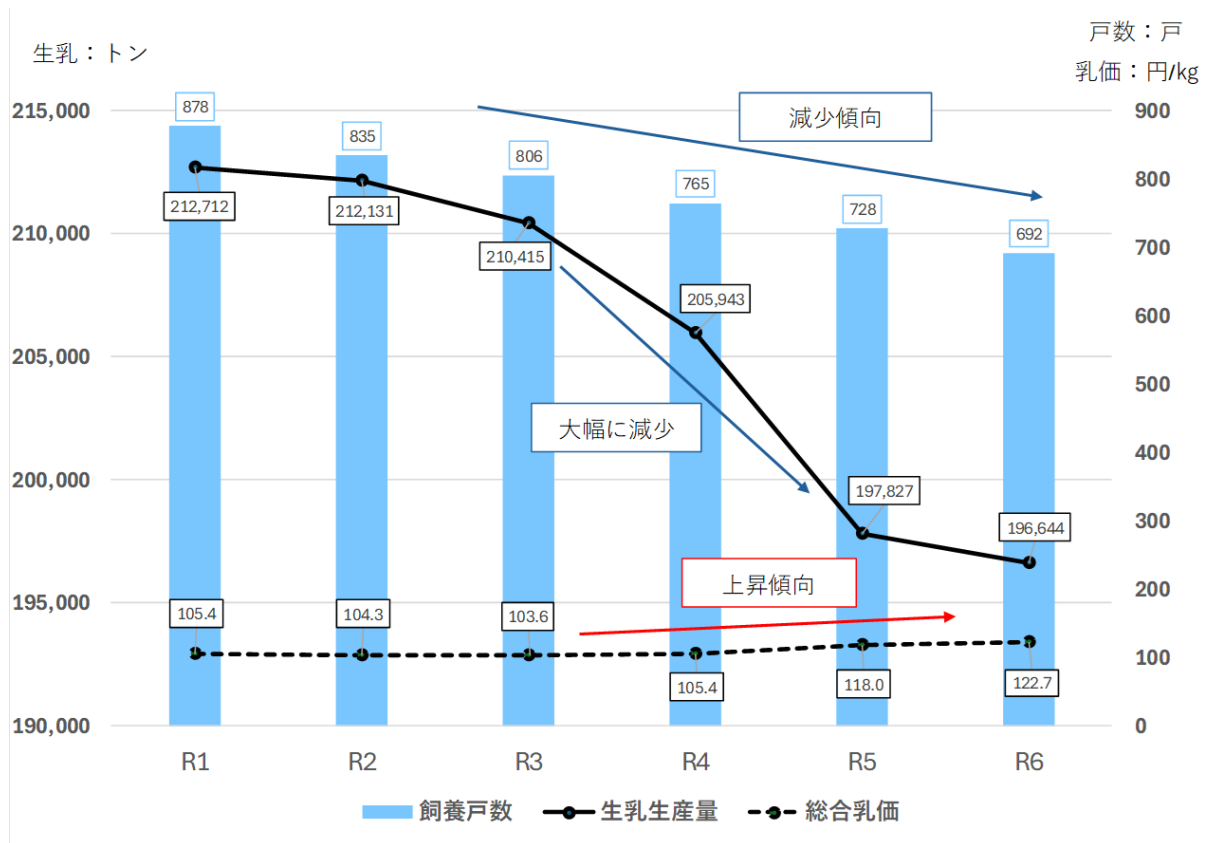


図1 飼養戸数、生乳生産量及び総合乳価の推移

出典：飼養戸数（畜産統計）、生乳生産量（牛乳乳製品統計）、総合乳価（農業物価統計）

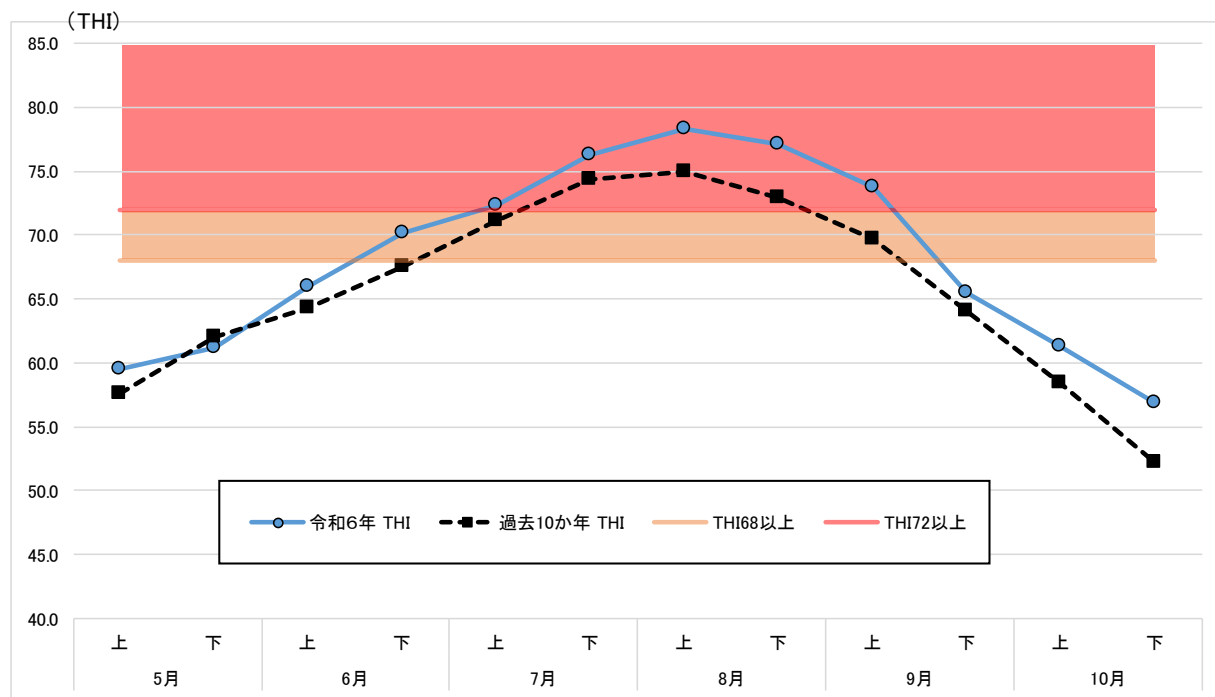


図2 令和6年度及び過去10か年における5～10月の日平均THIの推移

3 乳用牛群検定実施状況

検定戸数は318戸と前年度を22戸下回り、検定頭数も15,917頭と前年度を692頭下回ったが、1戸あたり検定頭数は50.1頭と昨年度より1.2頭増加した。畜産統計から推定した検定戸数比率は、50.6%（前年度50.9%）と前年より低下し、検定頭数比率も、68.3%（前年度70.1%）と前年より低下した。

全国平均と比べて、検定頭数比率は高いが、検定戸数比率は低く、検定戸数比率の全国との差は3.1ポイントとなり、前年度の2.5ポイントから広がった。

1戸あたり経産牛頭数は37.0頭と前年より1.5頭増加したが、全国平均と比べて半分程度の小規模であることがわかる。検定組合別では、南部（雫石）で144.8頭、東部（岩手他）で95.0頭など大規模化が進んでいる一方、30頭未満の組合も複数見られる。

また、令和6年度現在、AT検定の加入率は30.5%と、全国平均と比べて半分程度であるが、都府県の27.4%と比較すると、3.1ポイント高い。

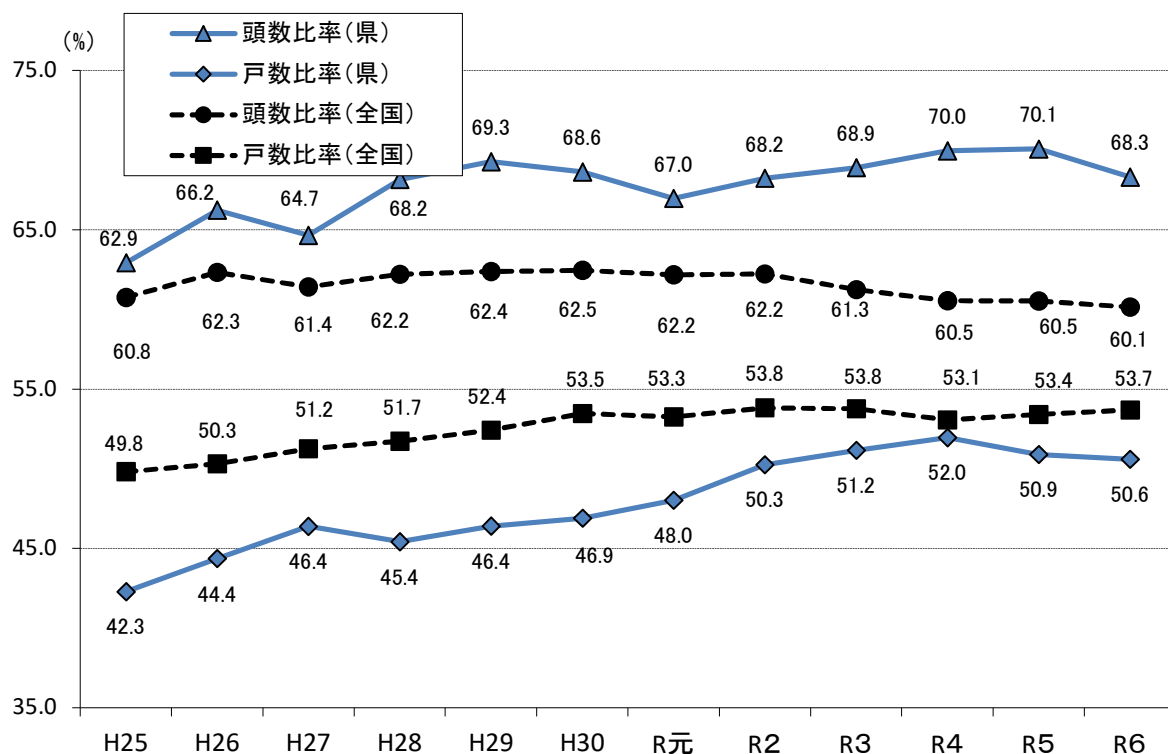


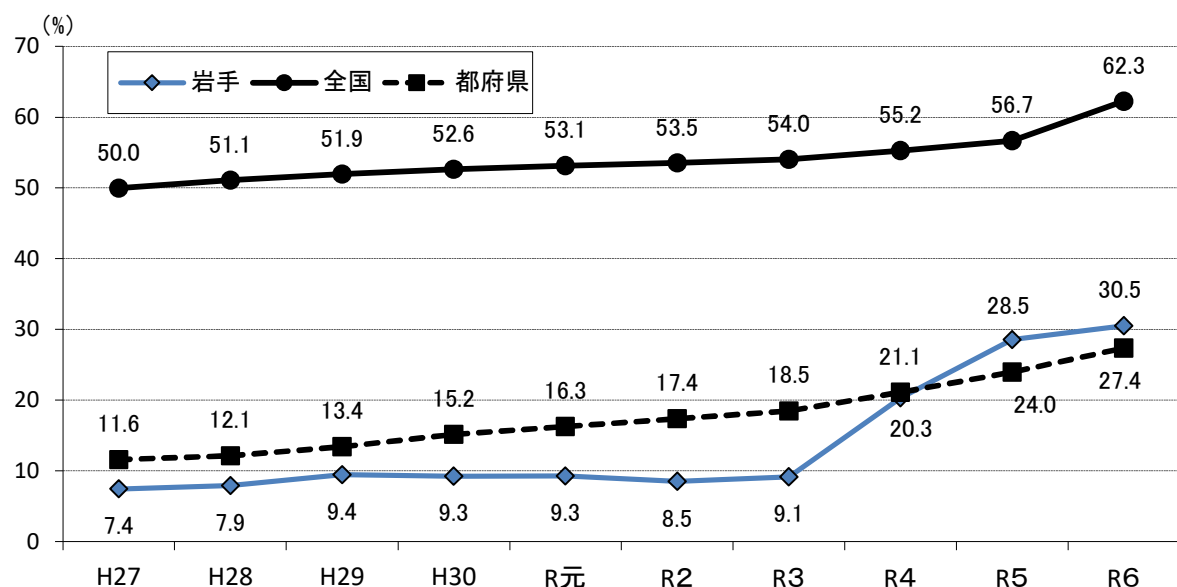
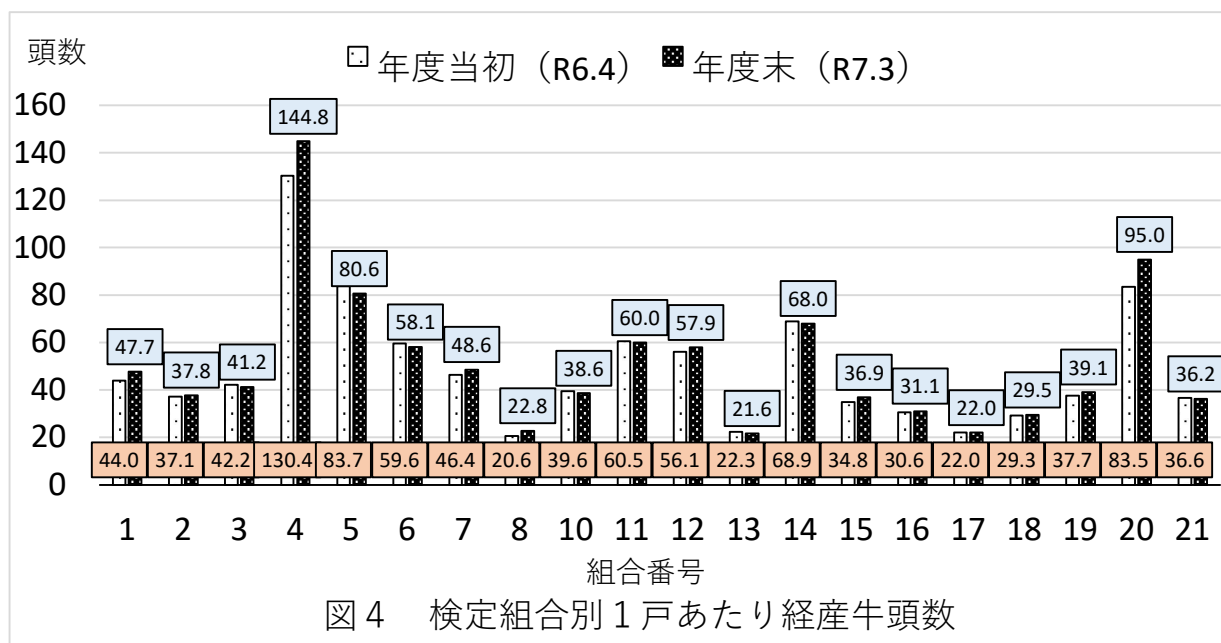
図3 乳用牛群検定実施戸数比率並びに実施頭数比率の推移

表1 岩手県の牛群検定実施状況

	検定			畜産統計			検定農家 比率(%)	検定牛頭 数比率(%)
	検定農家数	検定牛頭数	1戸当り頭数	成畜戸数	経産牛頭数	1戸当り頭数		
H25	444	17,053	38.4	1,050	27,100	25.8	42.3	62.9
H26	432	17,484	40.5	974	26,400	27.1	44.4	66.2
H27	430	17,393	40.4	927	26,900	29.0	46.4	64.7
H28	417	17,246	41.4	918	25,300	27.6	45.4	68.2
H29	413	17,249	41.8	890	24,900	28.0	46.4	69.3
H30	400	17,023	42.6	853	24,800	29.1	46.9	68.6
R元	388	17,281	44.5	808	25,800	31.9	48.0	67.0
R2	387	17,605	45.5	770	25,800	33.5	50.3	68.2
R3	372	17,292	46.5	727	25,100	34.5	51.2	68.9
R4	359	17,139	47.7	691	24,500	35.5	52.0	70.0
R5	340	16,609	48.9	668	23,700	35.5	50.9	70.1
R6	318	15,917	50.1	629	23,300	37.0	50.6	68.3

※ 検定は各年度末、畜産統計は同年度の2月1日時点。

※ 全頭対象（ホルスタイン種、ジャージー種、その他）



本書の図表中の組合番号一覧

組合番号	正式名称 (本文中略称)	組合番号	正式名称 (本文中略称)	組合番号	正式名称 (本文中略称)
1	葛巻町乳牛改良検定組合 (葛巻(葛巻))	8	磐井地方乳牛改良検定組合 (磐井)	15	八幡平地域乳牛改良検定組合 (八幡平(その他))
2	金ヶ崎町乳牛改良検定組合 (金ヶ崎(金ヶ崎))	9	旧宮古。現在使用なし。	16	いわて宮古乳牛改良検定組合 (宮古)
3	金ヶ崎町乳牛改良検定組合 (金ヶ崎(奥州・大船渡他))	10	岩中酪乳牛検定組合 (岩中酪(八幡平・滝沢・盛岡他))	17	南部地域乳牛改良検定組合 (滝沢)
4	南部地域乳牛改良検定組合 (雫石)	11	岩中酪乳牛検定組合 (岩中酪(二戸・岩手・盛岡他))	18	東部乳牛改良検定組合 (東部(玉山))
5	いわてくじ乳用牛群改良組合 (久慈)	12	八幡平地域乳牛改良検定組合 (八幡平(松尾・寄木))	19	花北乳用牛群検定推進協議会 (花北)
6	花平乳用牛群改良検定組合 (花平)	13	遠野地方乳牛改良検定組合 (遠野)	20	東部乳牛改良検定組合 (東部(岩手他))
7	葛巻町乳牛改良検定組合 (葛巻/江刈)	14	奥中山乳牛改良検定組合 (奥中山)	21	九戸軽米牛群検定組合 (九戸軽米)

4 検定終了牛の305日検定成績

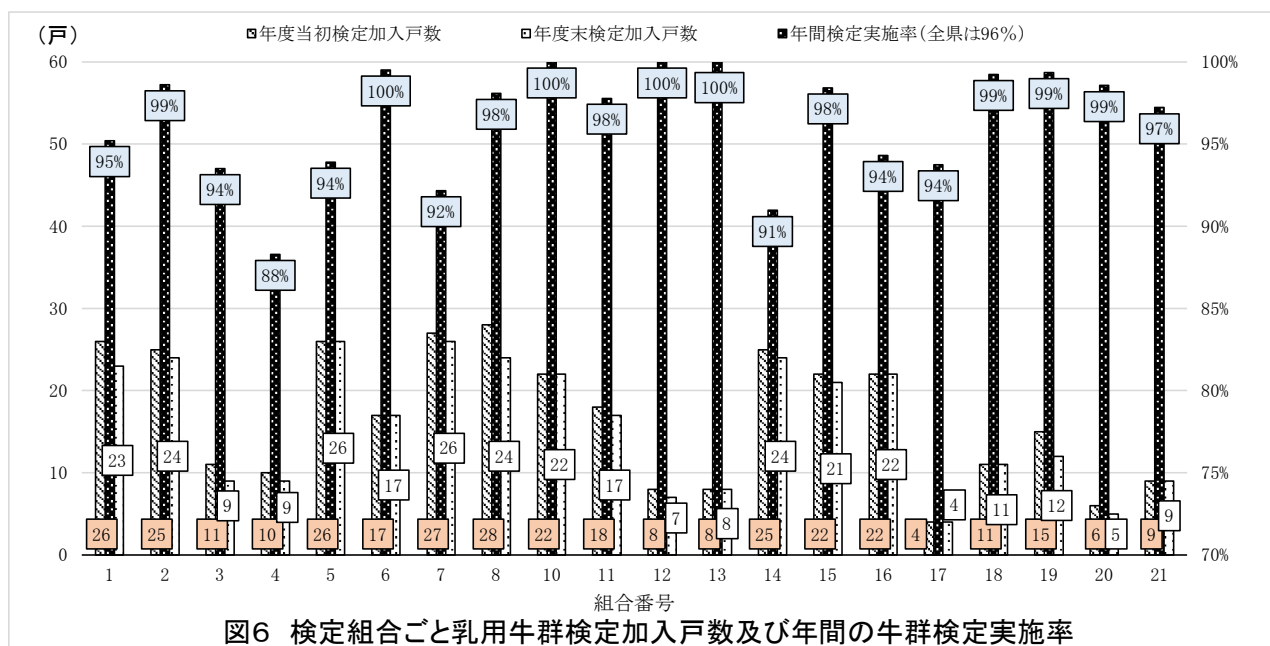
(1) 検定実施頭数

岩手県全体の検定実施頭数は、令和6年度末時点で16,409頭(実際に検定した頭数)と、前年の16,609頭より200頭減少した。各組合別の検定実施頭数(月平均)の差は大きく、最大で24倍となっている。また、年間検定実施率も各組合間で80%台から100%と差は大きかった。

305日成績が得られた7,652頭の平均産次は2.2産で、昨年度と同じであったが、全国平均(2.5産)よりも低かった。各検定組合別の産次数は、磐井、八幡平(松尾・寄木)が2.5産と高く、金ヶ崎(金ヶ崎)、花北、頭部(岩手他)、九戸軽米が2.0産未満と低かった。

表2 各検定組合の検定実施頭数、検定終了頭数及び平均産次(全乳用牛)

組合	検定実施頭数 (R7.3)	検定実施頭数 (月平均)	年度内 1乳期検定終了頭数	年度内305日検定終了 (公式記録)	
				頭数	平均産次
1 葛巻(葛巻)	1,181	1,149	678	519	2.2
2 金ヶ崎(金ヶ崎)	1,071	1,074	484	424	1.9
3 金ヶ崎(奥州・大船渡他)	448	444	248	176	2.2
4 雫石	1,159	1,143	767	639	2.4
5 久慈	2,090	2,068	1,349	1,015	2.2
6 花平	1,173	1,176	584	495	2.1
7 葛巻(江刈)	1,277	1,311	758	625	2.4
8 磐井	596	614	345	280	2.5
10 岩中酪(八幡平・滝沢・盛岡他)	911	894	573	487	2.1
11 岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)	1,288	1,278	608	511	2.0
12 八幡平(松尾・寄木)	409	396	265	218	2.5
13 遠野	173	175	118	103	2.4
14 奥中山	1,517	1,525	906	648	2.2
15 八幡平(その他)	757	763	426	342	2.1
16 宮古	661	678	434	341	2.3
17 滝沢	92	84	48	37	2.4
18 東部(玉山)	306	329	207	155	2.0
19 花北	494	505	301	234	1.9
20 東部(岩手他)	480	501	303	243	1.9
21 九戸軽米	326	324	205	160	1.8
全県	16,409	16,429	9,607	7,652	2.2



(2) 305日乳量

県全体の305日乳量(立会検定分)の平均は9,674kgと、前年度の9,659kgより15kg増加した。全国平均の9,765kgよりも低く、差は、前年度の94kgから91kgに縮小した。

各検定組合別の72か月齢補正乳量では、奥中山、花北が多く、12,000kgを超えた。

4%脂肪補正乳量(4%FCM)は、乳脂率4%に補正した場合の乳量であり、葛巻、金ヶ崎、磐井、岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)、八幡平(松尾・寄木)、遠野、宮古、東部(岩手他)は4%FCMが305日乳量よりも200kg以上少なかった。

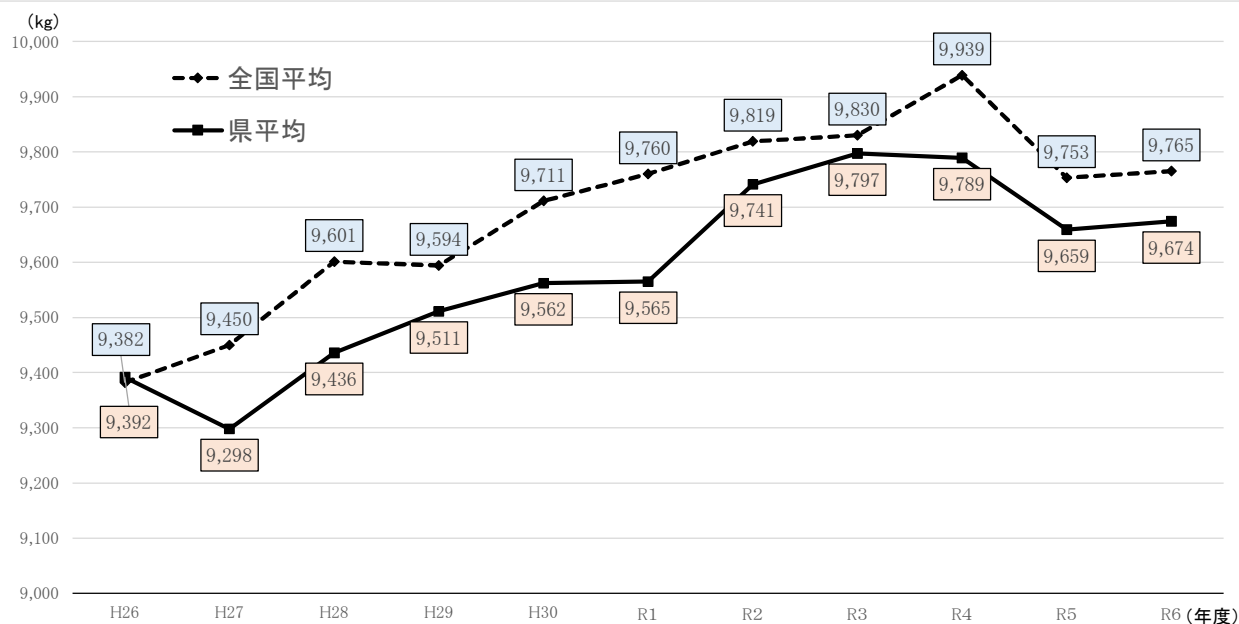


図7 全国及び岩手県の305日乳量の推移(公式記録、ホルスタイン種、立会検定分)

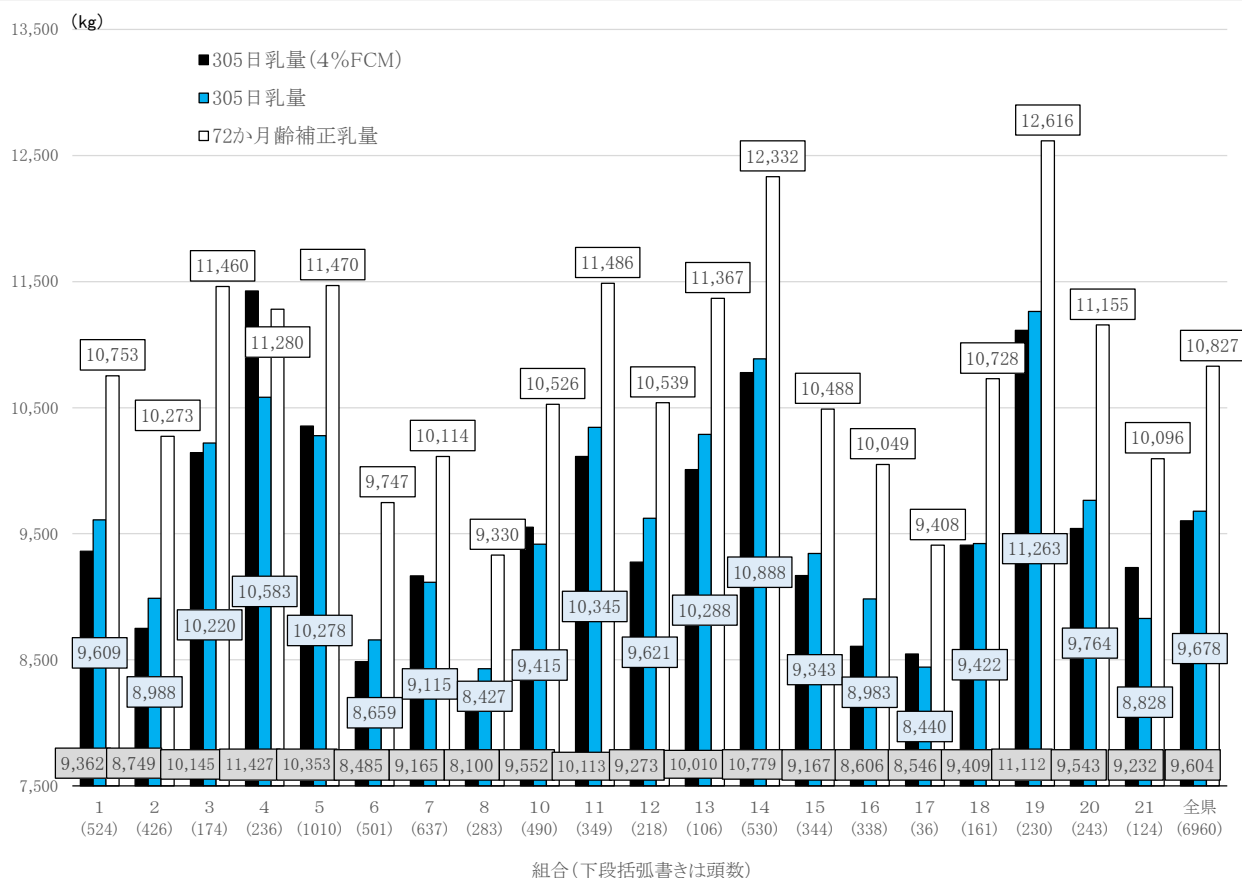


図8 ホルスタイン種の305日成績(公式記録)における組合別平均乳量(全検定)

(3) 乳量階層別頭数

①全頭数における乳量階層別頭数

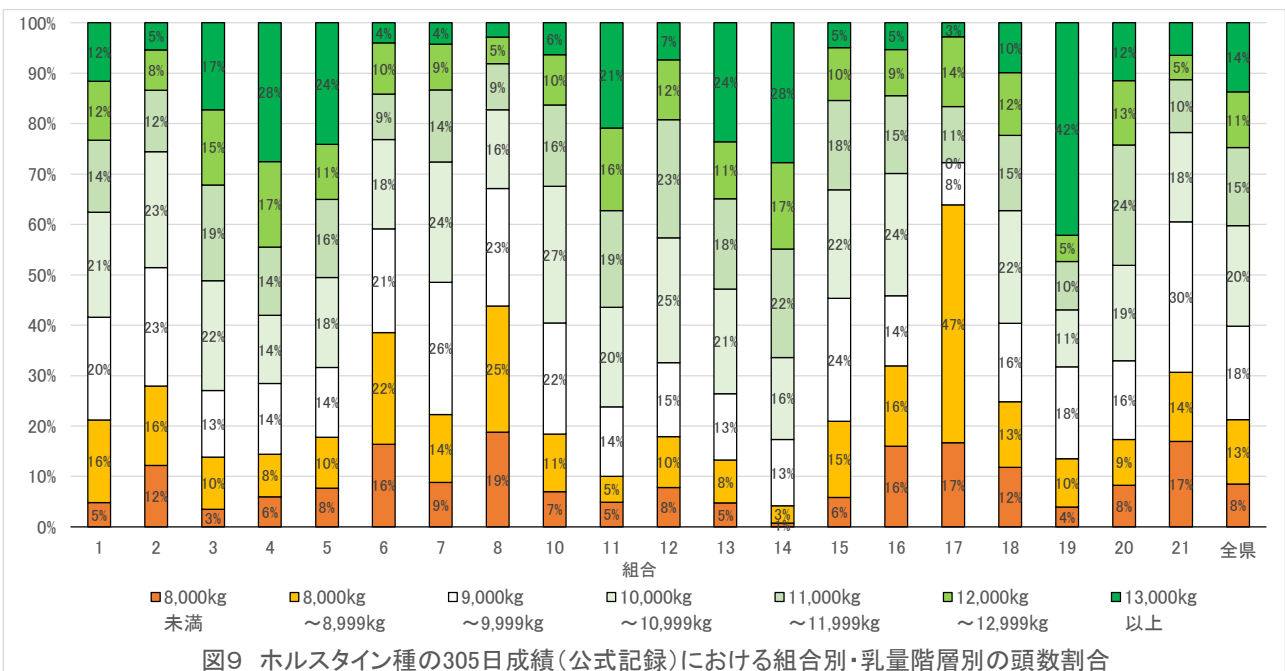
県全体の乳量階層別頭数割合は、10,000～10,999kg階層が最も多く、これを境として減少する山型の分布となり、昨年度最も多かった8,000kg未満の階層が8.5%と最も少なかった。10,000kg以上の頭数割合は60.2%と、前年度の41.8%より18.4ポイント増加した。

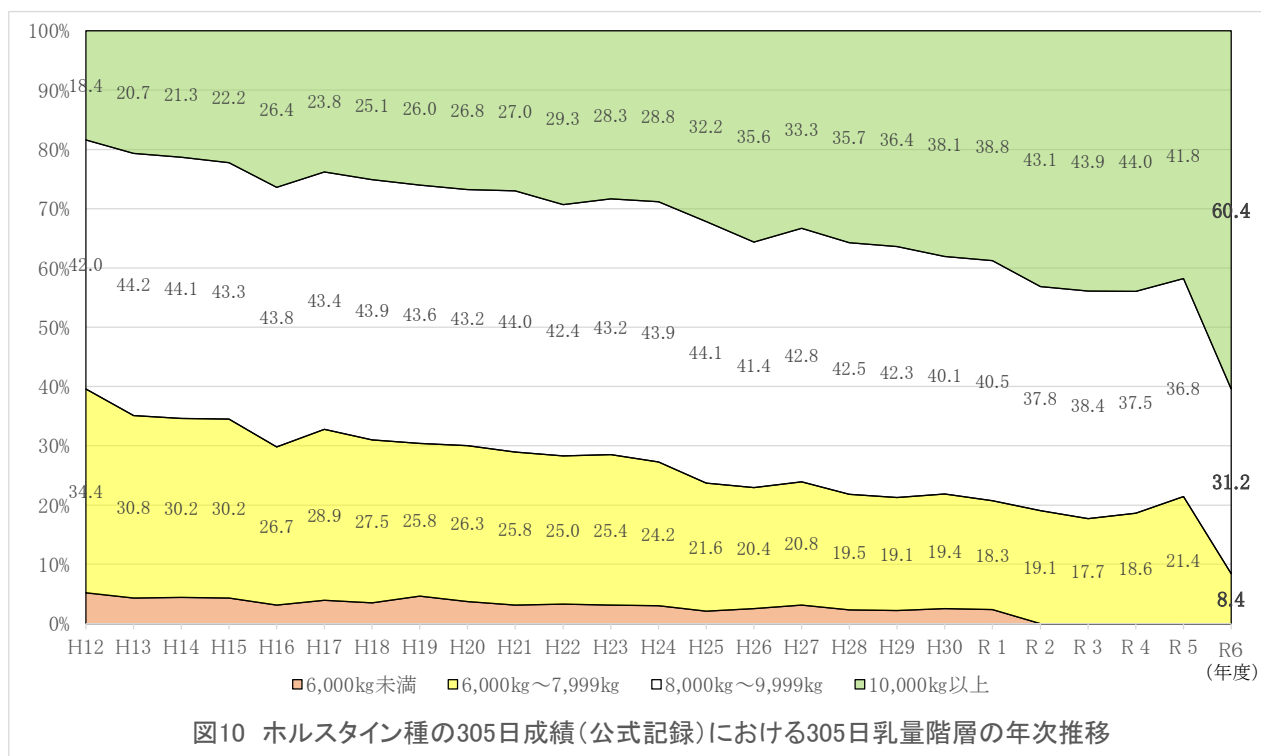
11,000kg以上の頭数割合が50%以上となっている組合は、金ヶ崎(奥州・大船渡他)、南部(雫石)、久慈、岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)、遠野、奥中山、花北である。これらの組合は、12,000kg以上の頭数割合も30%以上と多いことから、飼養管理水準がより高いと考えられる。

前年度からの乳量階層別の推移は、8,000kg未満の低乳量階層が減少、10,000kg以上の高乳量階層が増加した。

表3 ホルスタイン種の305日成績(公式記録)における組合別・乳量階層別の頭数

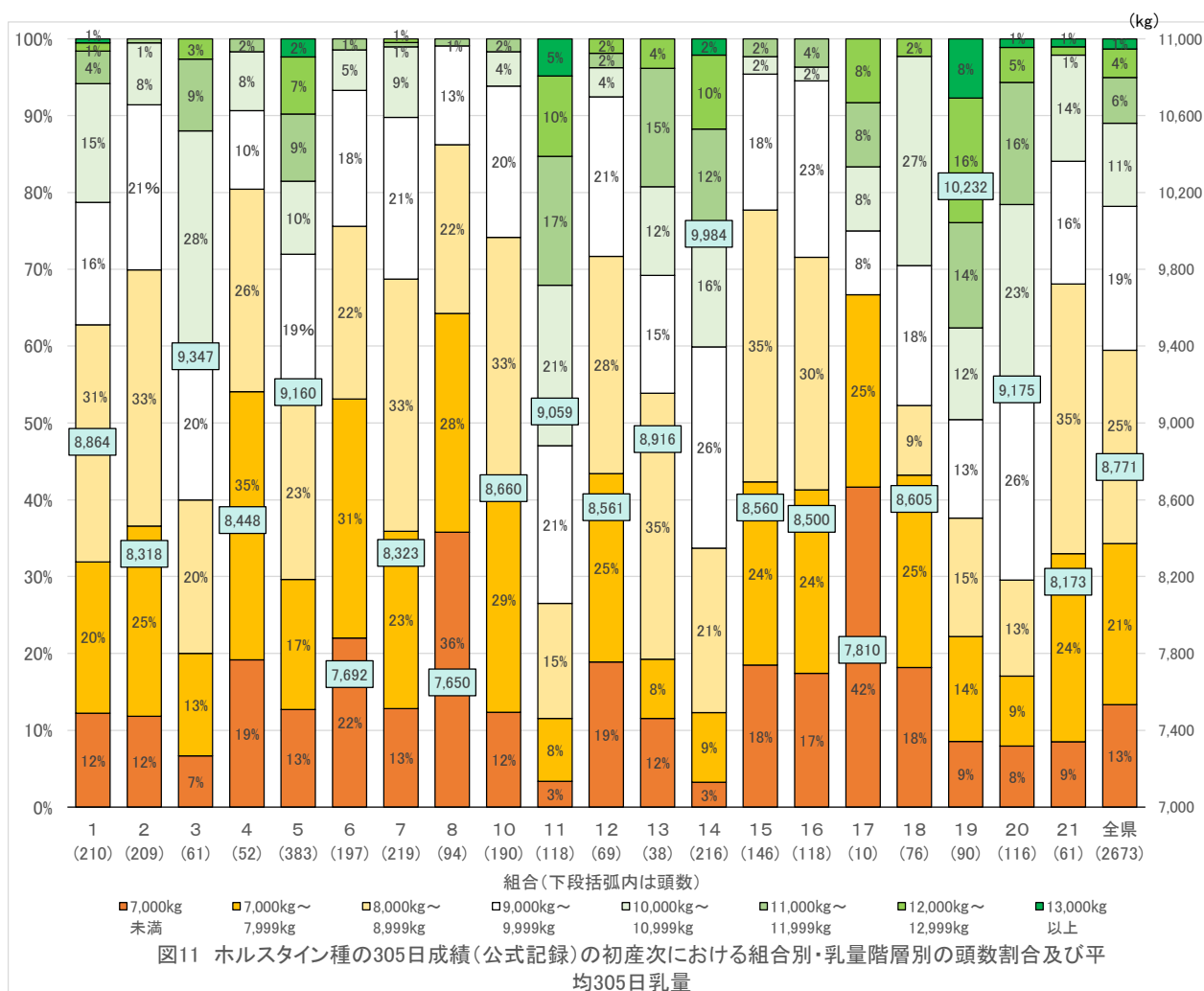
組合	乳量階層							計
	8,000kg未満	8,000kg～8,999kg	9,000kg～9,999kg	10,000kg～10,999kg	11,000kg～11,999kg	12,000kg～12,999kg	13,000kg以上	
1 葛巻(葛巻)	25	86	107	109	75	61	61	524
2 金ヶ崎(金ヶ崎)	52	67	100	98	52	34	23	426
3 金ヶ崎(奥州・大船渡他)	6	18	23	38	33	26	30	174
4 南部(雫石)	14	20	33	32	32	40	65	236
5 久慈	77	102	140	180	157	110	244	1,010
6 花平	82	111	103	89	45	51	20	501
7 葛巻(江刈)	56	86	167	152	91	58	27	637
8 磐井	53	71	66	44	26	15	8	283
10 岩中酪(八幡平・滝沢・盛岡他)	34	56	108	133	79	49	31	490
11 岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)	17	18	48	69	67	57	73	349
12 八幡平(松尾・寄木)	17	22	32	54	51	26	16	218
13 遠野	5	9	14	22	19	12	25	106
14 奥中山	4	18	70	86	114	91	147	530
15 八幡平(その他)	20	52	84	74	61	36	17	344
16 宮古	54	54	47	82	52	31	18	338
17 南部(滝沢)	6	17	3	0	4	5	1	36
18 東部(玉山)	19	21	25	36	24	20	16	161
19 花北	9	22	42	26	22	12	97	230
20 東部(岩手他)	20	22	38	46	58	31	28	243
21 九戸軽米	21	17	37	22	13	6	8	124
全県(頭数)	591	889	1,287	1,392	1,075	771	955	6,960
全県(割合)	8.5%	12.8%	18.5%	20.0%	15.4%	11.1%	13.7%	100.0%





②初産次における乳量階層別頭数割合及び平均乳量

初産次の乳量階層別頭数割合は、8,000～8,999kg階層が25%と最も多く、これを境として減少する山型の分布となっている。10,000kg以上の頭数割合は、岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)及び花北が50%を超えて高くなっている。平均305日乳量は、7,650kgから最大で10,232kgと、差が大きい。



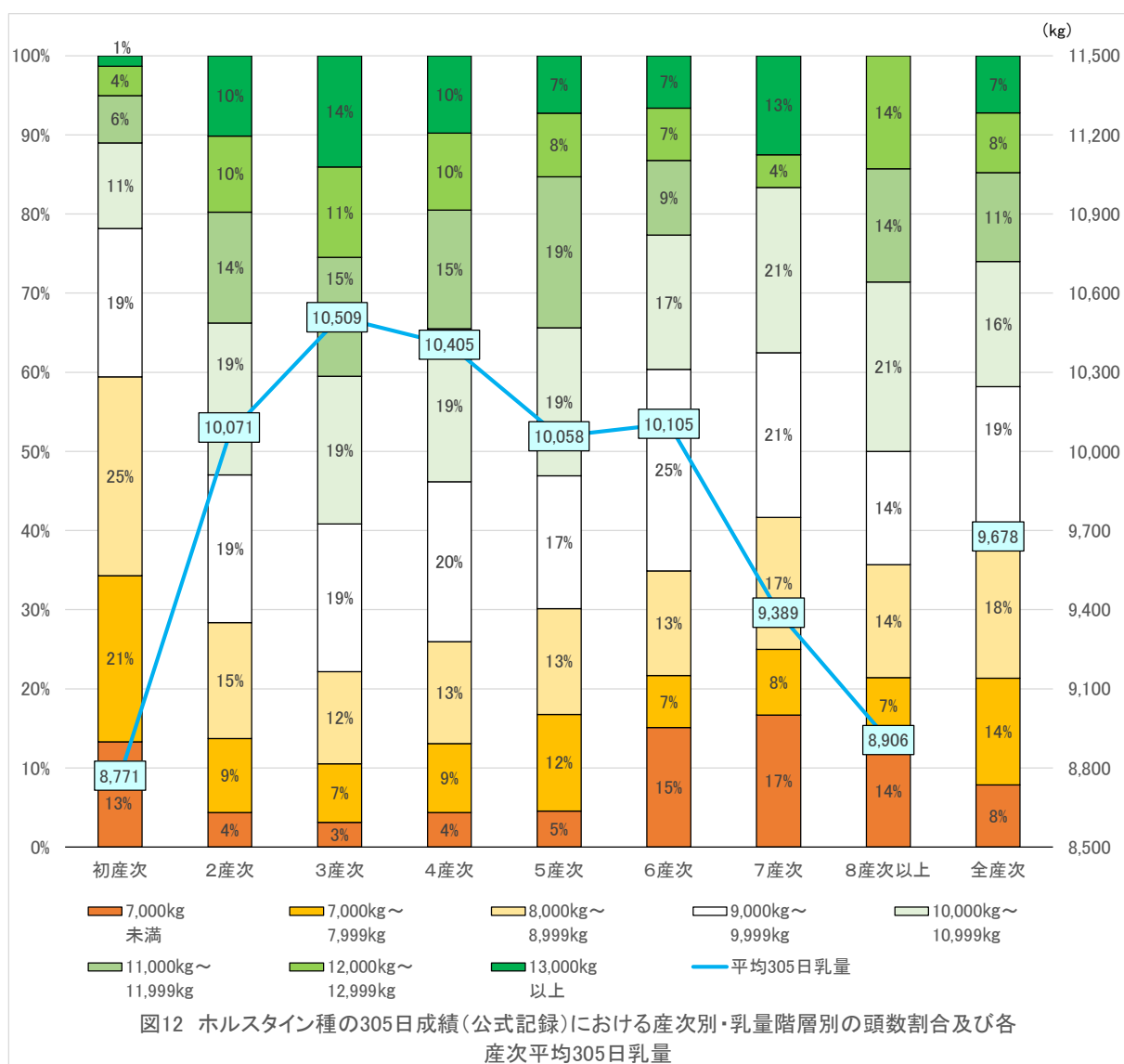
(4) 産次別補正乳量

①産次別・乳量階層別の頭数

県全体の産次別頭数は、前年度と同様に、初産と2産で全体の7割弱を占めていた。初産次では、8,000～8,999kgの頭数割合が25%と高く、その他の階層がやや少なくなる分布となっていたが、2～5産次では7～8割が9,000kg以上に分布しており、初産次よりも平均305日乳量が多かった。

表4 ホルスタイン種の305日成績(公式記録)における産次別・乳量階層別の頭数

産次	乳量階層別頭数								計	頭数割合
	7,000kg未満	7,000kg～7,999kg	8,000kg～8,999kg	9,000kg～9,999kg	10,000kg～10,999kg	11,000kg～11,999kg	12,000kg～12,999kg	13,000kg以上		
初産次	364	528	668	553	298	147	73	42	2,673	38.4%
2産次	109	176	314	398	368	274	188	153	1,980	28.4%
3産次	49	92	163	256	229	202	130	163	1,284	18.4%
4産次	41	58	80	119	122	98	65	79	662	9.5%
5産次	15	26	37	41	38	31	16	26	230	3.3%
6産次	6	5	13	15	13	13	10	6	81	1.2%
7産次	7	2	6	6	6	6	3	1	37	0.5%
8産次以上	2	6	4	1	0	0	0	0	13	0.2%
合計	593	893	1,285	1,389	1,074	771	485	470	6,960	



②産次別・乳量階層別の乳量

305日乳量は産次を重ねるごとに増加し、3産次で最高となりその後減少する傾向にあった。

各乳量階層別72か月齢補正乳量は初産が最も多く、産次を経るごとに減少傾向にあるが、加重平均では、初産次が2産次より少なかった(初産次10,740kg、2産次11,148kg)。これは、初産次の乳量階層別の頭数割合が、9,000kg未満で50%以上と低乳量階層でやや多いことによるものと考えられる。

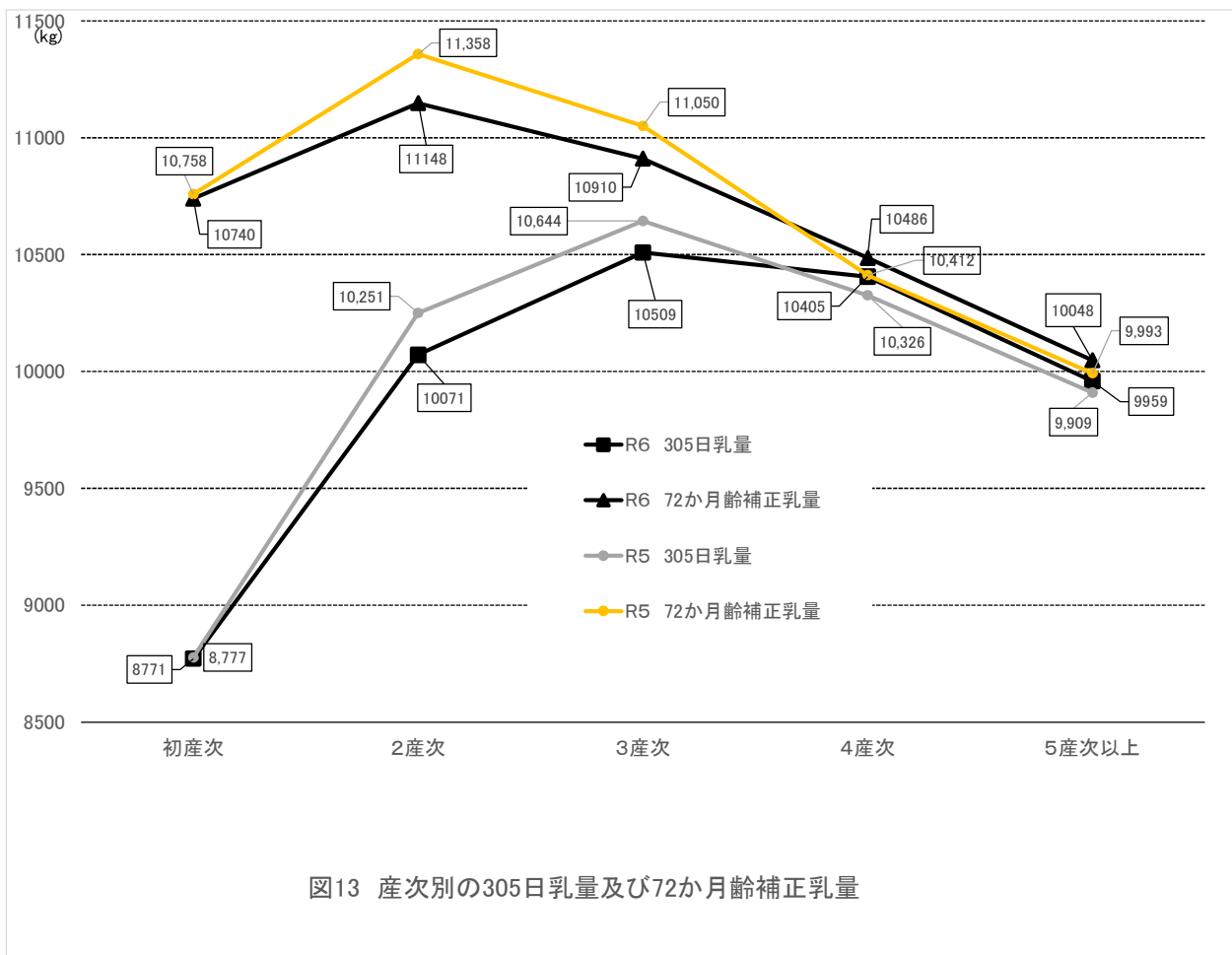


表5 ホルスタイン種の305日成績(公式記録)における産次別・305日乳量階層別の頭数、305日乳量、4%FCM乳量、72か月齢補正乳量

産次	項目	乳量階層別								頭数:計 乳量:平均
		7,000kg 未満	7,000kg～ 7,999kg	8,000kg～ 8,999kg	9,000kg～ 9,999kg	10,000kg～ 10,999kg	11,000kg～ 11,999kg	12,000kg～ 12,999kg	13,000kg 以上	
初産次	頭数	364	528	668	553	298	147	73	42	2,673
	305日乳量	6,242	7,537	8,492	9,482	10,449	11,429	12,431	13,686	8,771
	305日乳量(4%FCM)	6,384	7,697	8,520	9,325	10,143	11,255	11,688	12,749	8,717
	72か月齢補正乳量	7,675	9,248	10,395	11,605	12,730	14,002	15,278	16,727	10,740
2産次	頭数	109	176	314	398	368	274	188	153	1,980
	305日乳量	6,021	7,524	8,512	9,531	10,479	11,466	12,457	14,080	10,071
	305日乳量(4%FCM)	6,392	7,815	8,705	9,625	10,305	11,073	12,170	13,789	10,030
	72か月齢補正乳量	6,718	8,366	9,473	10,538	11,608	12,638	13,741	15,561	11,148
3産次	頭数	49	92	163	256	229	202	130	163	1,284
	305日乳量	6,156	7,555	8,501	9,519	10,494	11,484	12,444	14,313	10,509
	305日乳量(4%FCM)	6,310	7,821	8,575	9,496	10,196	11,248	12,016	14,183	10,388
	72か月齢補正乳量	6,419	7,837	8,827	9,910	10,871	11,896	12,854	14,928	10,910
4産次	頭数	41	58	80	119	122	98	65	79	662
	305日乳量	6,141	7,579	8,520	9,566	10,490	11,454	12,452	14,752	10,405
	305日乳量(4%FCM)	6,466	7,691	8,374	9,696	10,264	11,164	12,227	14,214	10,270
	72か月齢補正乳量	6,264	7,660	8,636	9,655	10,592	11,491	12,447	14,851	10,486
5産次	頭数	15	26	37	41	38	31	16	26	230
	305日乳量	6,165	7,616	8,525	9,486	10,457	11,536	12,469	14,002	10,058
	305日乳量(4%FCM)	6,308	7,534	8,638	9,716	10,436	11,448	11,139	13,374	9,939
	72か月齢補正乳量	6,235	7,714	8,572	9,512	10,447	11,539	12,453	14,033	10,087
6産次	頭数	6	5	13	15	13	13	10	6	81
	305日乳量	6,150	7,767	8,479	9,421	10,489	11,340	12,468	13,800	10,105
	305日乳量(4%FCM)	5,950	8,018	9,006	9,568	10,216	11,095	11,809	13,634	10,041
	72か月齢補正乳量	6,204	8,074	8,710	9,628	10,548	11,568	12,639	14,089	10,292
7産次	頭数	7	2	6	6	6	6	3	1	37
	305日乳量	5,949	7,514	8,609	9,392	10,478	11,448	12,341	14,157	9,389
	305日乳量(4%FCM)	5,793	7,097	8,608	8,810	9,633	10,921	13,318	14,298	9,104
	72か月齢補正乳量	6,127	7,439	8,952	9,601	10,734	11,849	12,525	14,012	9,626
8産次 以上	頭数	0	2	6	4	1	0	0	0	13
	305日乳量		7,576	8,757	9,435	10,350				8,906
	305日乳量(4%FCM)		8,217	7,495	9,240	8,772				8,241
	72か月齢補正乳量		7,907	8,818	9,579	10,403				9,034
全産次	頭数	591	889	1287	1392	1075	771	485	470	6,960
	305日乳量	6,181	7,543	8,502	9,509	10,474	11,463	12,449	14,231	9,678
	305日乳量(4%FCM)	6,372	7,730	8,567	9,485	10,231	11,179	12,029	13,880	9,604
	72か月齢補正乳量	7,227	8,765	9,779	10,724	11,587	12,490	13,489	15,220	10,827

※ 4%FCM乳量とは、乳脂率を4%に補正計算した場合の乳量

表6 ホルスタイン種の305日成績(公式記録)における組合別・乳量階層別の乳量及び補正乳量①

組合	項目	全産次 乳量階層別							
		7,000kg 未満	7,000kg～ 7,999kg	8,000kg～ 8,999kg	9,000kg～ 9,999kg	10,000kg～ 10,999kg	11,000kg～ 11,999kg	12,000kg～ 12,999kg	13,000kg 以上
1 葛巻(葛巻)	頭数	25	86	107	109	75	61	36	25
	305日乳量	6,440	7,564	8,539	9,455	10,406	11,472	12,441	14,052
	305日乳量(4%FCM)	6,547	7,765	8,505	9,257	9,920	10,929	11,650	13,009
	72か月齢補正乳量	7,625	8,815	9,723	10,694	11,331	12,598	13,484	15,051
2 金ヶ崎(金ヶ崎)	頭数	52	67	100	98	52	34	18	5
	305日乳量	6,086	7,508	8,470	9,550	10,474	11,491	12,397	13,604
	305日乳量(4%FCM)	6,199	7,528	8,185	9,391	10,392	10,522	10,938	13,272
	72か月齢補正乳量	7,286	8,742	9,902	11,125	11,496	12,609	13,102	13,758
3 金ヶ崎(奥州・大船渡 他)	頭数	6	18	23	38	33	26	17	13
	305日乳量	6,212	7,566	8,381	9,571	10,589	11,587	12,458	14,306
	305日乳量(4%FCM)	5,774	7,605	8,162	9,678	10,747	11,857	11,483	13,857
	72か月齢補正乳量	7,210	8,895	9,311	10,830	12,009	12,961	13,777	15,186
4 南部(雫石)	頭数	14	20	33	32	32	40	25	40
	305日乳量	6,388	7,579	8,536	9,584	10,466	11,517	12,486	14,013
	305日乳量(4%FCM)	6,606	7,996	8,942	10,266	11,072	12,605	14,358	15,081
	72か月齢補正乳量	7,493	8,589	9,706	10,592	11,115	11,816	12,857	14,408
5 久慈	頭数	77	102	140	180	157	110	92	152
	305日乳量	6,124	7,516	8,512	9,517	10,458	11,459	12,517	14,366
	305日乳量(4%FCM)	6,510	7,751	8,446	9,508	10,287	11,731	12,712	14,446
	72か月齢補正乳量	7,064	8,649	9,798	10,793	11,505	12,812	13,832	15,501
6 花平	頭数	82	111	103	89	45	51	14	6
	305日乳量	5,874	7,457	8,460	9,529	10,424	11,437	12,589	13,416
	305日乳量(4%FCM)	6,049	7,615	8,355	9,265	9,764	10,833	11,593	11,707
	72か月齢補正乳量	6,961	8,612	9,675	10,582	11,497	12,419	13,091	14,069
7 葛巻(江刈)	頭数	56	86	167	152	91	58	25	2
	305日乳量	6,219	7,622	8,462	9,492	10,384	11,448	12,384	14,100
	305日乳量(4%FCM)	6,632	7,852	8,694	9,530	10,132	11,054	12,083	12,917
	72か月齢補正乳量	7,196	8,969	9,527	10,489	11,340	12,015	13,004	14,608
8 磐井	頭数	53	71	66	44	26	15	7	1
	305日乳量	6,189	7,511	8,503	9,462	10,507	11,510	12,391	13,370
	305日乳量(4%FCM)	6,358	7,480	8,395	8,848	9,624	9,935	10,172	10,329
	72か月齢補正乳量	7,205	8,511	9,371	10,441	11,190	12,065	12,831	14,711
10 岩中酪(八幡平・滝 沢・盛岡他)	頭数	34	56	108	133	79	49	21	10
	305日乳量	6,414	7,621	8,527	9,506	10,485	11,414	12,374	13,574
	305日乳量(4%FCM)	6,874	8,019	8,875	9,782	10,237	11,186	11,725	13,530
	72か月齢補正乳量	7,440	8,990	9,854	10,578	11,517	12,423	12,935	13,981
11 岩中酪(二戸・岩手・ 盛岡他)	頭数	17	18	48	69	67	57	49	24
	305日乳量	6,537	7,538	8,553	9,500	10,560	11,543	12,394	13,536
	305日乳量(4%FCM)	6,539	8,193	8,808	9,579	10,409	11,199	11,414	12,163
	72か月齢補正乳量	7,701	8,854	9,967	10,847	11,725	12,388	13,431	14,233
12 八幡平(松尾・寄木)	頭数	17	22	32	54	51	26	9	7
	305日乳量	6,107	7,568	8,626	9,495	10,518	11,378	12,333	13,569
	305日乳量(4%FCM)	6,046	7,622	8,863	9,312	10,050	10,448	11,249	11,316
	72か月齢補正乳量	6,901	8,928	10,001	10,602	11,184	11,900	12,758	13,795

表7 ホルスタイン種の305日成績(公式記録)における組合別・乳量階層別の乳量及び補正乳量②

組合	項目	全産次 乳量階層別							
		7,000kg未満	7,000kg～7,999kg	8,000kg～8,999kg	9,000kg～9,999kg	10,000kg～10,999kg	11,000kg～11,999kg	12,000kg～12,999kg	13,000kg以上
13 遠野	頭数	5	9	14	22	19	12	14	11
	305日乳量	6,473	7,477	8,551	9,513	10,382	11,592	12,318	13,911
	305日乳量(4%FCM)	6,133	7,506	8,586	9,201	10,104	11,610	11,806	13,057
	72か月齢補正乳量	7,532	8,690	10,131	11,159	11,450	12,113	12,971	14,289
14 奥中山	頭数	4	18	70	86	114	91	77	70
	305日乳量	6,451	7,509	8,546	9,487	10,486	11,441	12,475	14,263
	305日乳量(4%FCM)	7,251	8,250	9,113	9,772	10,501	11,116	11,957	13,249
	72か月齢補正乳量	7,466	9,193	10,277	11,110	11,886	12,868	13,885	15,294
15 八幡平(その他)	頭数	20	52	84	74	61	36	13	4
	305日乳量	6,438	7,500	8,522	9,556	10,534	11,418	12,398	14,381
	305日乳量(4%FCM)	6,564	7,834	8,502	9,618	10,017	10,598	11,047	13,213
	72か月齢補正乳量	7,848	8,931	9,828	10,537	11,735	12,091	13,313	14,223
16 宮古	頭数	54	54	47	82	52	31	17	1
	305日乳量	6,007	7,623	8,463	9,510	10,491	11,460	12,271	13,112
	305日乳量(4%FCM)	5,865	7,492	8,268	9,256	9,841	10,784	10,811	10,293
	72か月齢補正乳量	6,723	8,737	9,934	10,658	11,588	12,194	13,353	13,447
17 滝沢	頭数	6	17	3	0	4	5	1	0
	305日乳量	6,347	7,576	8,662		10,454	11,376	12,279	
	305日乳量(4%FCM)	6,191	7,343	8,329		12,120	11,409	15,165	
	72か月齢補正乳量	7,106	8,311	10,057		11,624	12,806	14,065	
18 東部(旧玉山)	頭数	19	21	25	36	24	20	9	7
	305日乳量	6,419	7,490	8,428	9,437	10,526	11,388	12,520	13,453
	305日乳量(4%FCM)	6,779	7,989	8,664	9,444	10,267	10,867	12,430	12,286
	72か月齢補正乳量	7,563	8,796	9,999	10,865	12,241	12,325	13,325	13,921
19 花北	頭数	9	22	42	26	22	12	15	82
	305日乳量	6,349	7,587	8,481	9,434	10,514	11,507	12,535	14,726
	305日乳量(4%FCM)	6,961	7,941	8,385	9,208	9,855	11,398	12,489	14,462
	72か月齢補正乳量	7,569	8,918	9,462	10,524	11,557	13,818	14,498	16,204
20 東部(岩手他)	頭数	20	22	38	46	58	31	20	8
	305日乳量	6,344	7,472	8,541	9,546	10,423	11,425	12,479	13,675
	305日乳量(4%FCM)	6,306	7,567	8,497	9,371	10,087	10,986	12,170	12,939
	72か月齢補正乳量	7,592	8,556	10,078	10,997	12,093	12,749	13,416	14,616
21 九戸軽米	頭数	21	17	37	22	13	6	6	2
	305日乳量	6,236	7,675	8,470	9,555	10,620	11,393	12,504	14,114
	305日乳量(4%FCM)	6,513	7,906	8,733	9,789	11,616	12,135	13,476	15,212
	72か月齢補正乳量	7,567	9,012	9,881	10,475	12,070	12,799	13,212	15,372
全県	頭数	591	889	1,287	1,392	1,075	771	485	470
	305日乳量	6,181	7,543	8,502	9,509	10,474	11,463	12,449	14,231
	305日乳量(4%FCM)	6,372	7,730	8,567	9,485	10,231	11,179	12,029	13,880
	72か月齢補正乳量	7,227	8,765	9,779	10,724	11,587	12,490	13,489	15,220

(5) 乳成分

①県全体の乳成分推移及び組合別乳成分

県全体の平均乳脂率、平均乳蛋白質率、平均無脂乳固形分率は、それぞれ、3.97%、3.32%、8.77%であり、全国と比べて乳脂率、乳蛋白質率及び無脂乳固形分率ともやや低かった。検定組合別では、乳脂率が3.83～4.32%、乳蛋白質率が3.23～3.39%と前年度と比べて差が縮まり、無脂乳固形分率が8.63～8.90%と、前年度と比べて差は同じであった。

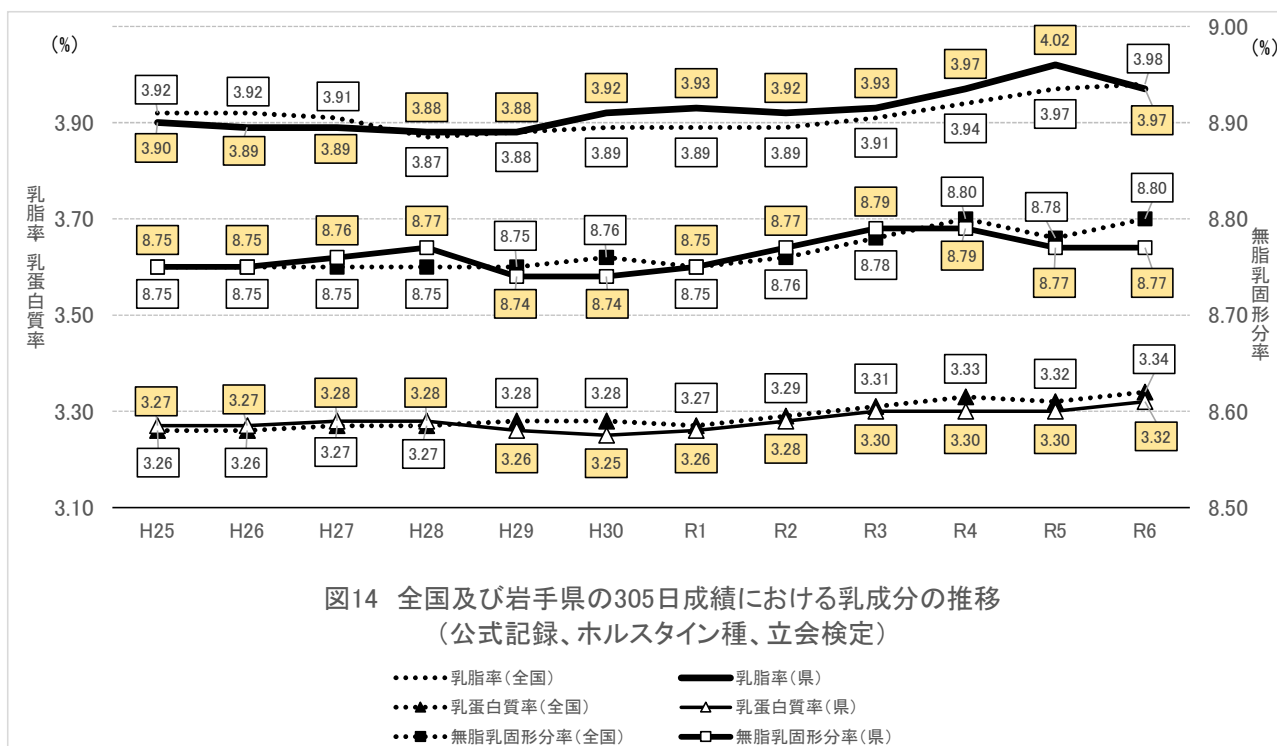


図14 全国及び岩手県の305日成績における乳成分の推移
(公式記録、ホルスタイン種、立会検定)

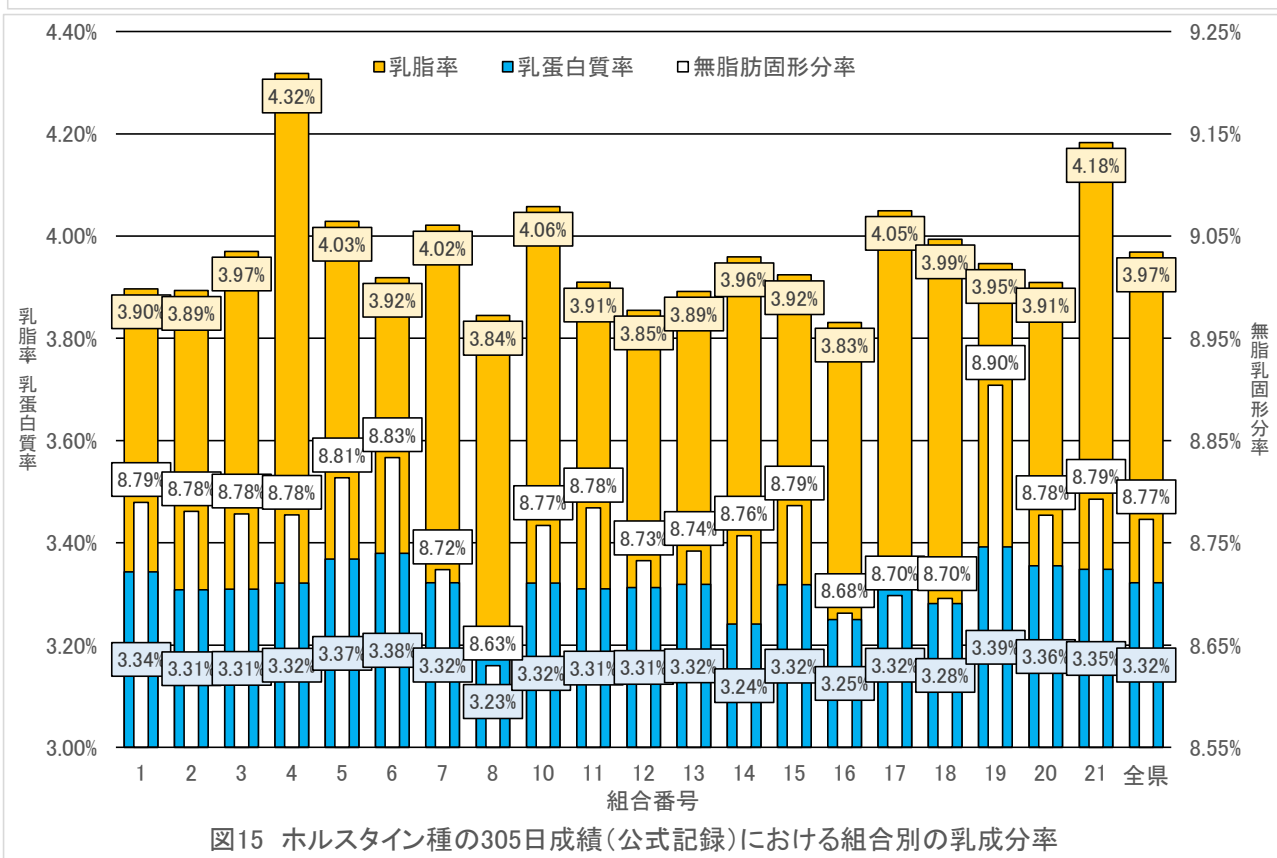


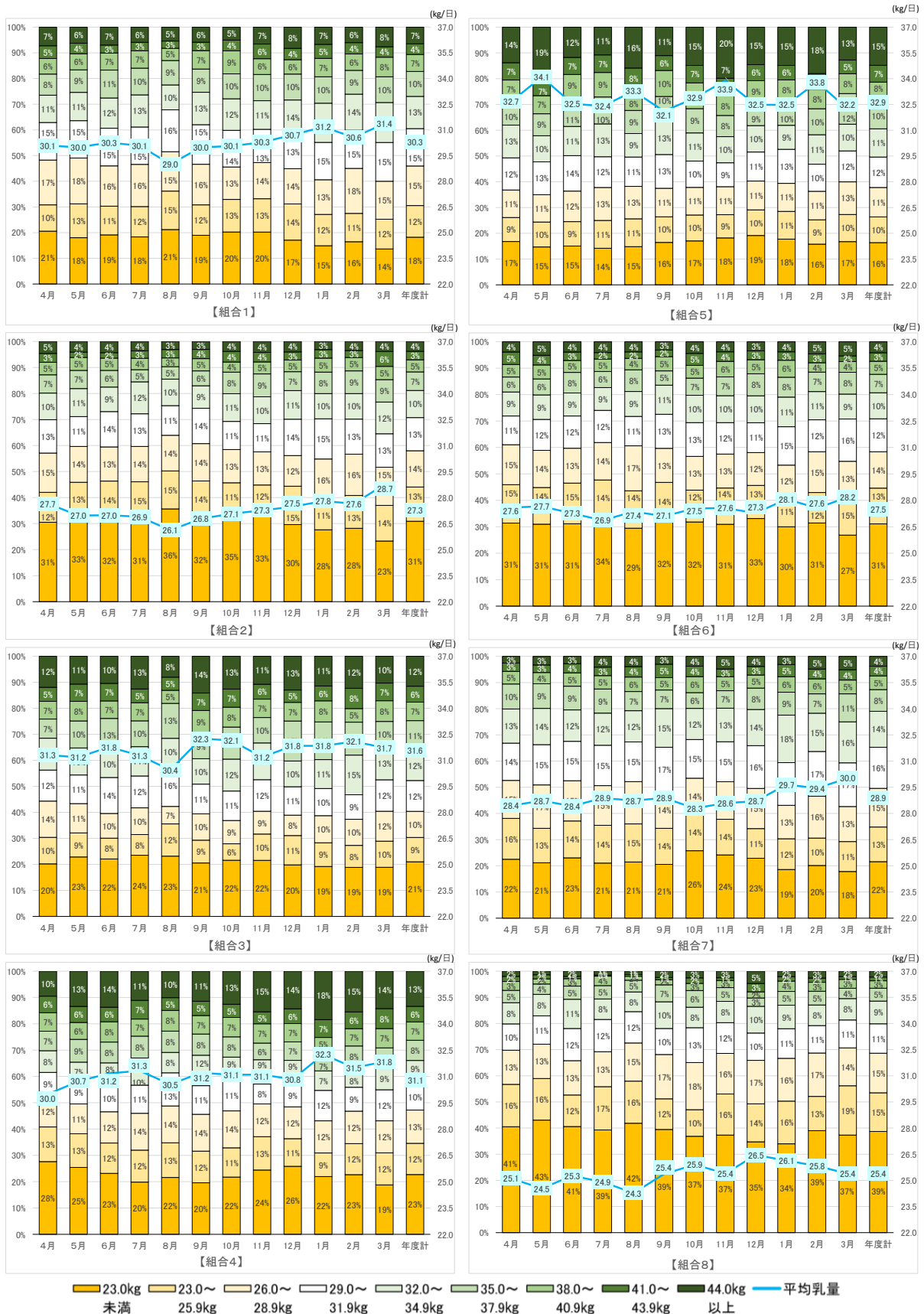
図15 ホルスタイン種の305日成績(公式記録)における組合別の乳成分率

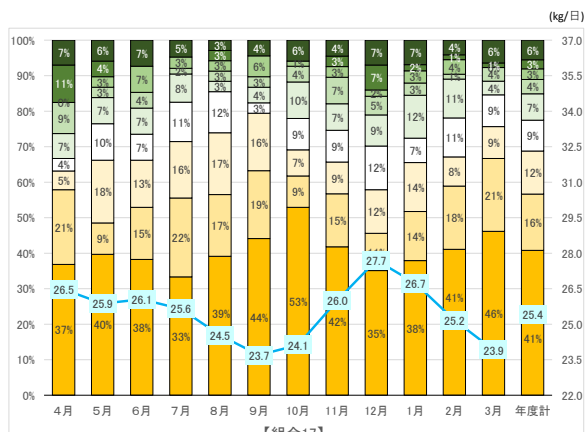
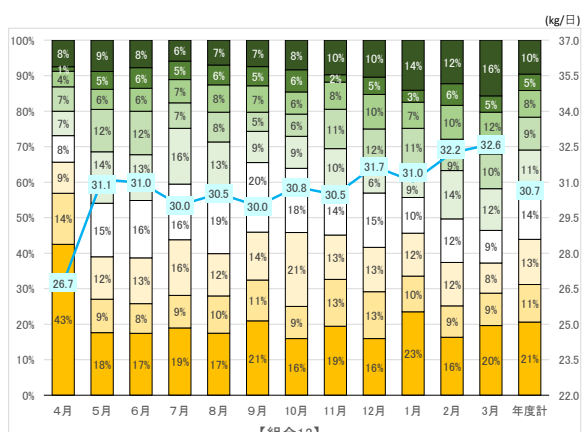
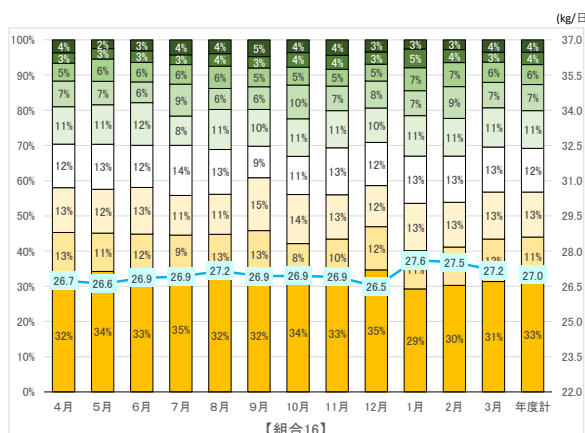
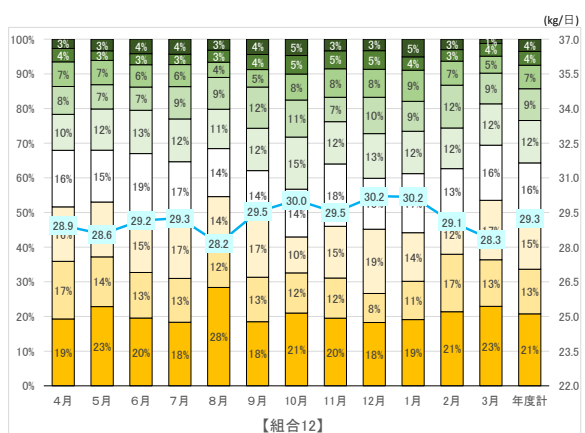
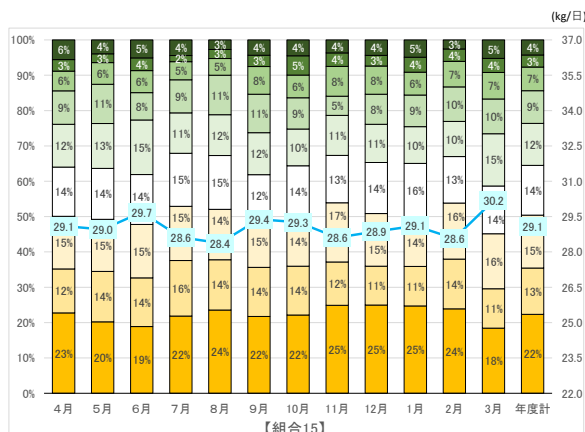
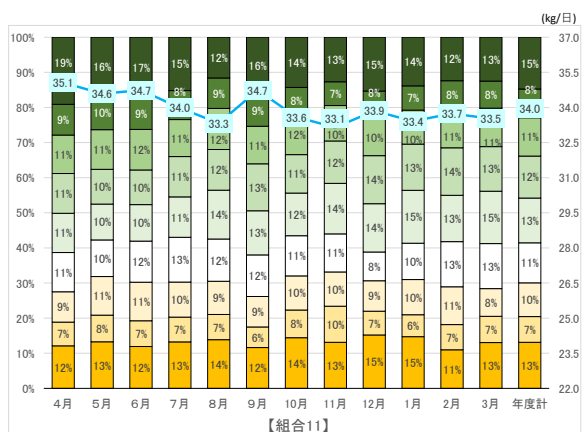
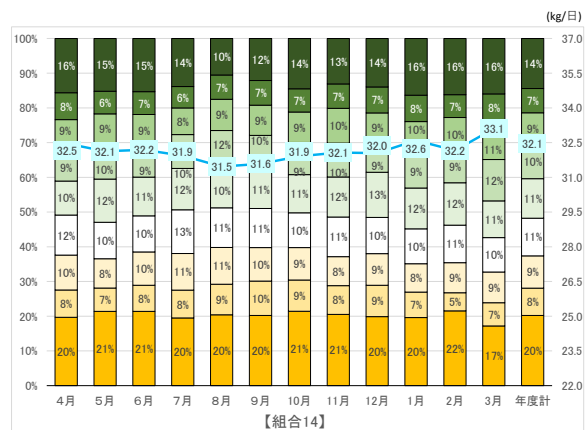
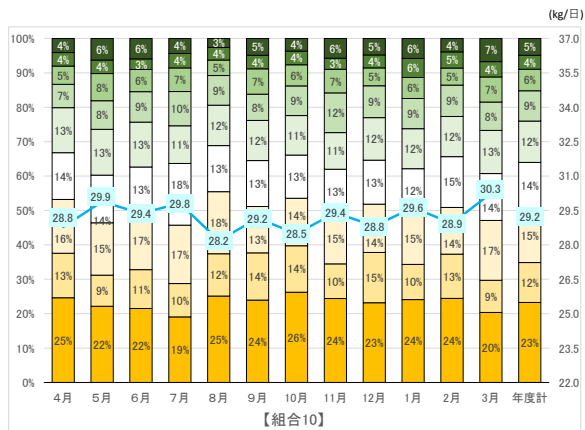
5 検定実施牛の月別検定成績

(1) 乳量階層別頭数割合と平均日乳量

乳量階層別(日乳量、3kg刻み)の平均日乳量は、県全体の月別において、29.7～30.8kg/日 平均30.3kg/日と顕著な変化はなかった。検定組合別では、久慈、岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)、奥中山、花北において、41.0kg/日以上頭数割合が20%以上と、他の組合に比べて多かった。

県全体の平均日乳量は、年間で30.3kg/日と、前年度の29.5kg/日より0.8kg/日増加した。8月の乳量は、8組合で月別乳量が最も少なく、年平均月乳量を15組合で下回ったが、全ての組合で乳量の減少が見られた前年に比べ、減少した組合は少なかった。検定組合別では、30kg/日以上が9組合ある一方、25kg台の組合も見られた。





23.0kg未満
 23.0~25.9kg
 26.0~28.9kg
 29.0~31.9kg
 32.0~34.9kg
 35.0~37.9kg
 38.0~40.9kg
 41.0~43.9kg
 44.0kg以上
 — 平均乳量

図17 月別・組合別の検定乳量の階層別頭数割合と平均日乳量②

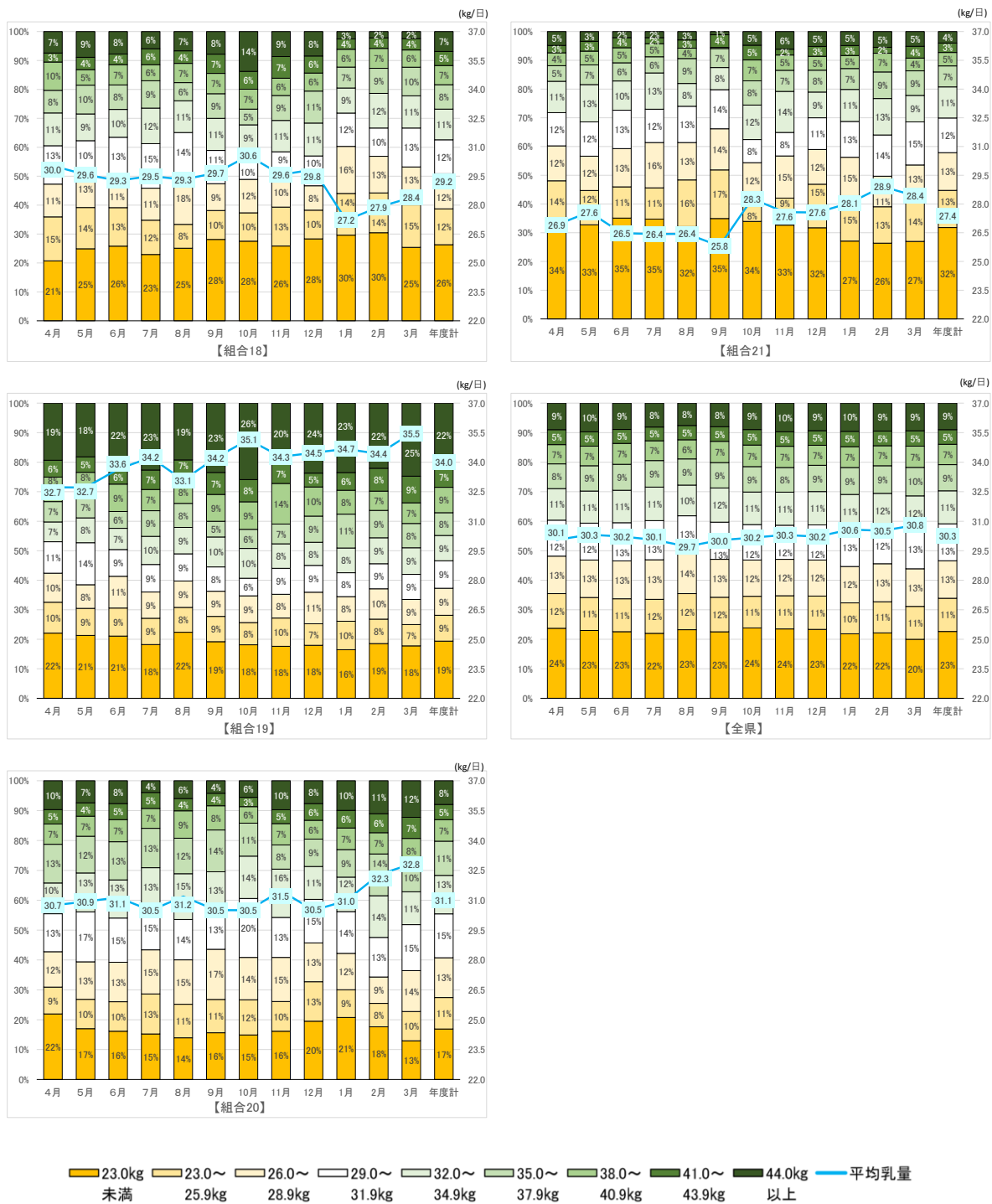
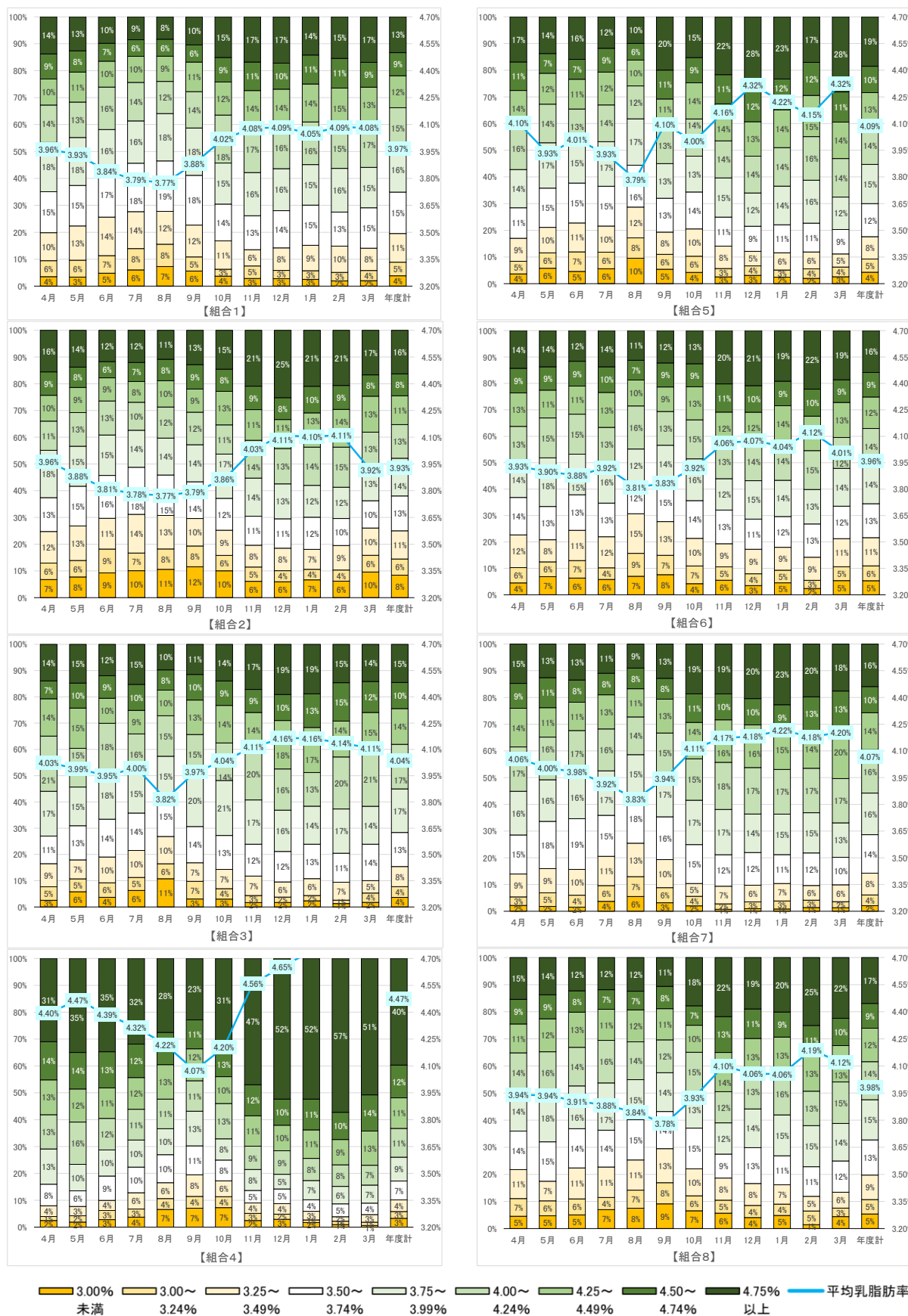
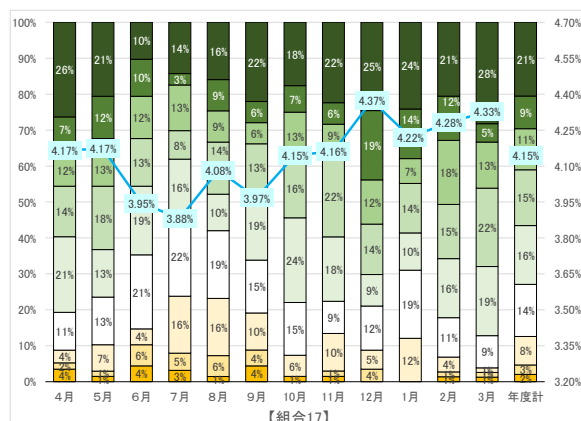
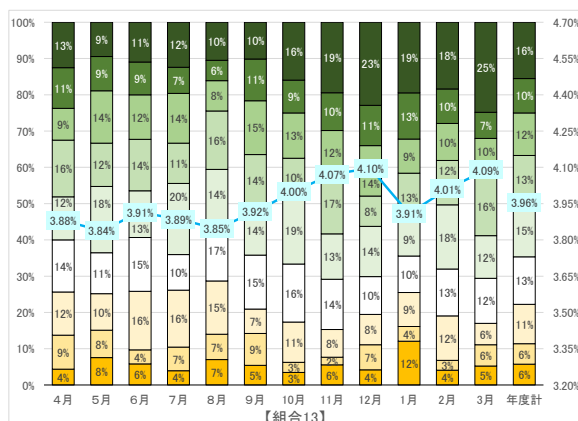
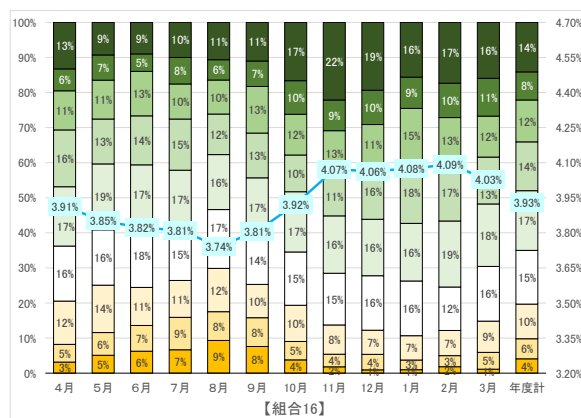
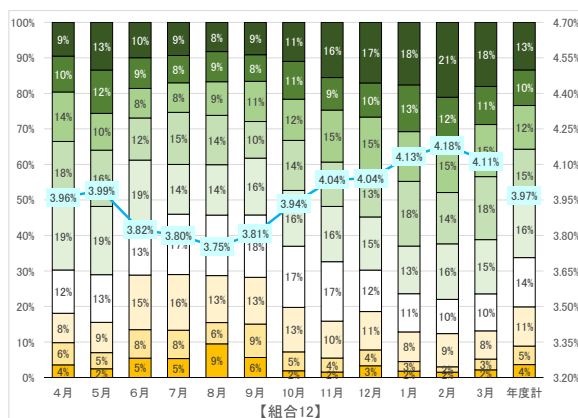
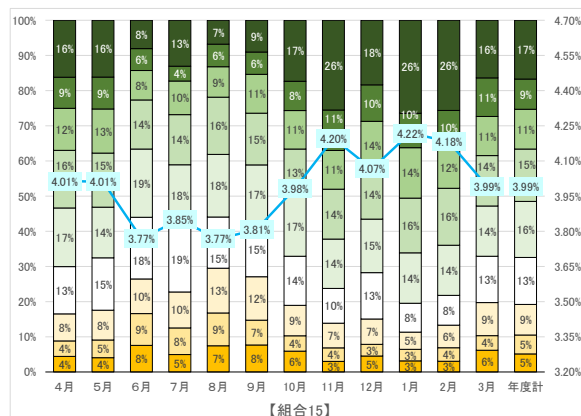
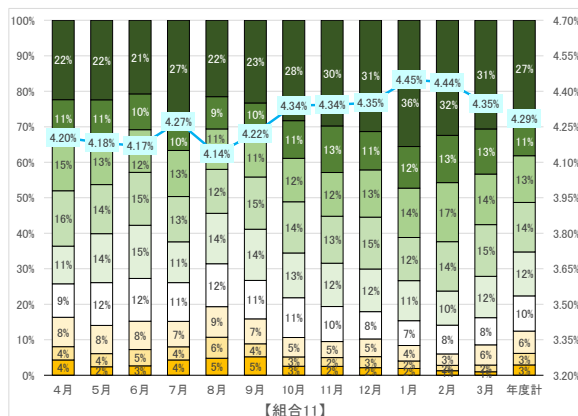
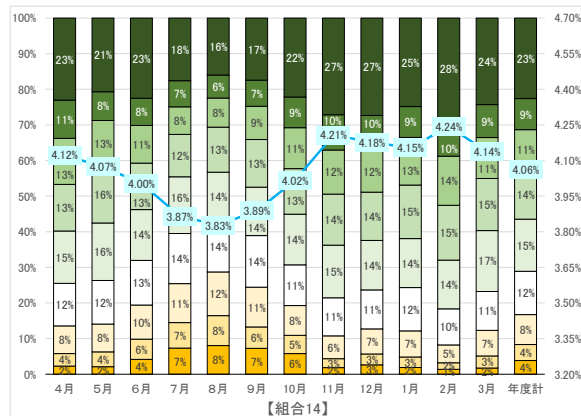
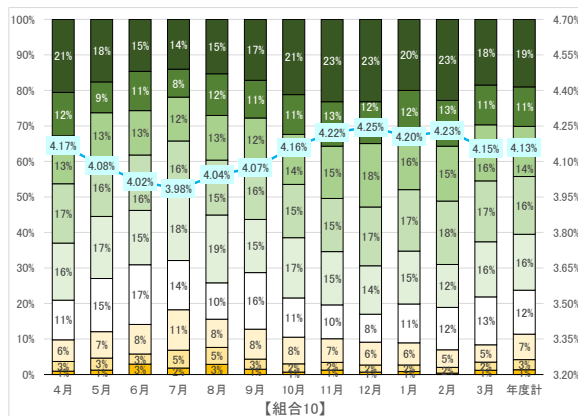


図18 月別・組合別の検定乳量の階層別頭数割合と平均日乳量③

(2) 乳脂率の階層別頭数割合と平均乳脂率

一般的に推奨されている乳脂率は、3.5～4.0%であり、低い場合は乾物摂取量、粗飼料給与量及び消化性繊維の不足等が原因として考えられる。乳脂率の県年度平均は4.09%と前年の4.06%を上回った。県全体の乳脂率階層別の月別頭数割合は、6～9月で3.50未満が20%以上とやや多くなり、11～3月になると4.00%以上が約6割と多くなる傾向にあった。検定組合別においても3.50未満の階層の頭数割合が、6～9月に多くなる傾向にあった。





3.00%
 3.00~
 3.25~
 3.50~
 3.75~
 3.99%
 4.00~
 4.25~
 4.49%
 4.74%
 4.75%
 — 平均乳脂率

図20 月別・組合別の乳脂率の階層別頭数割合と平均乳脂率②

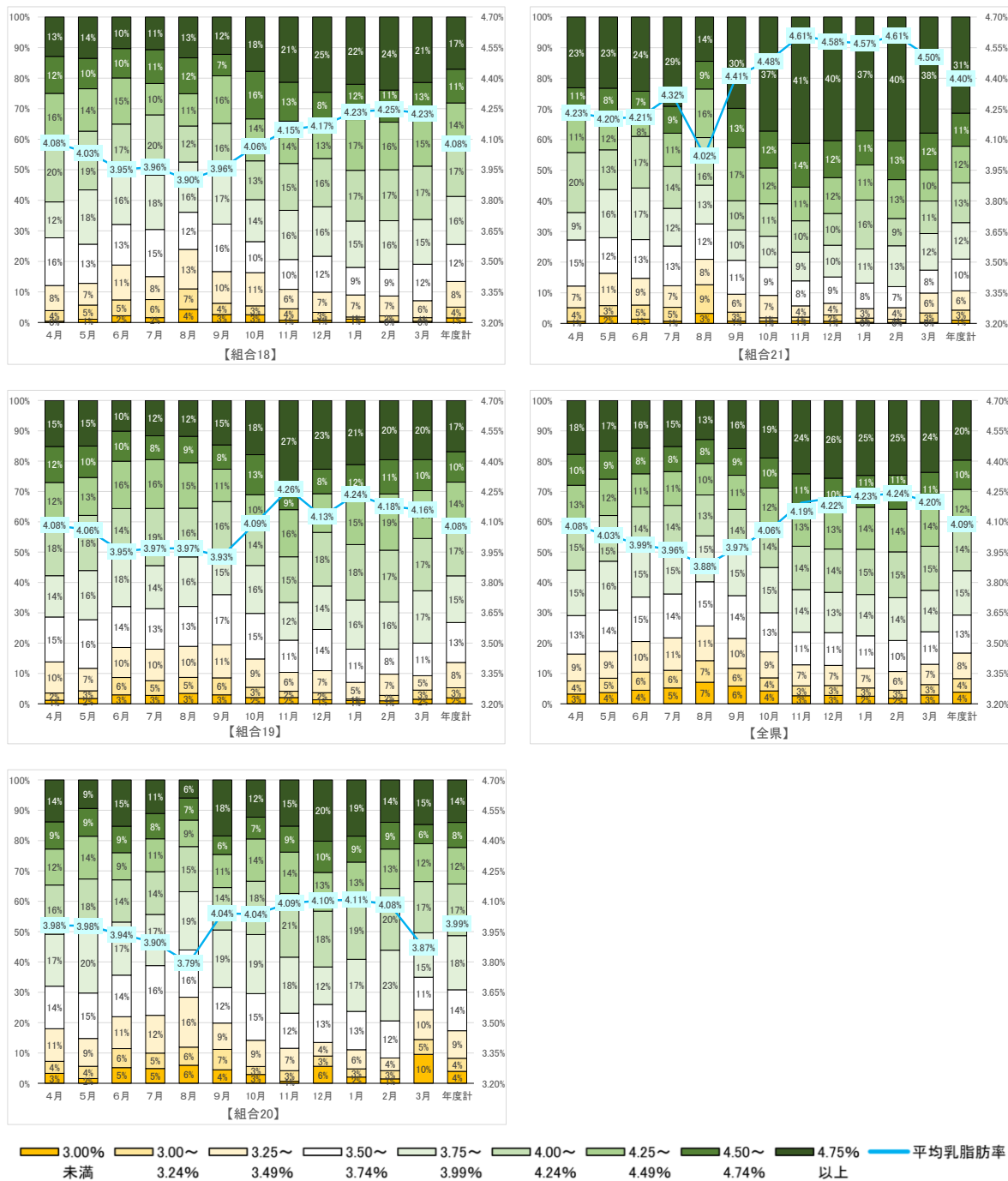
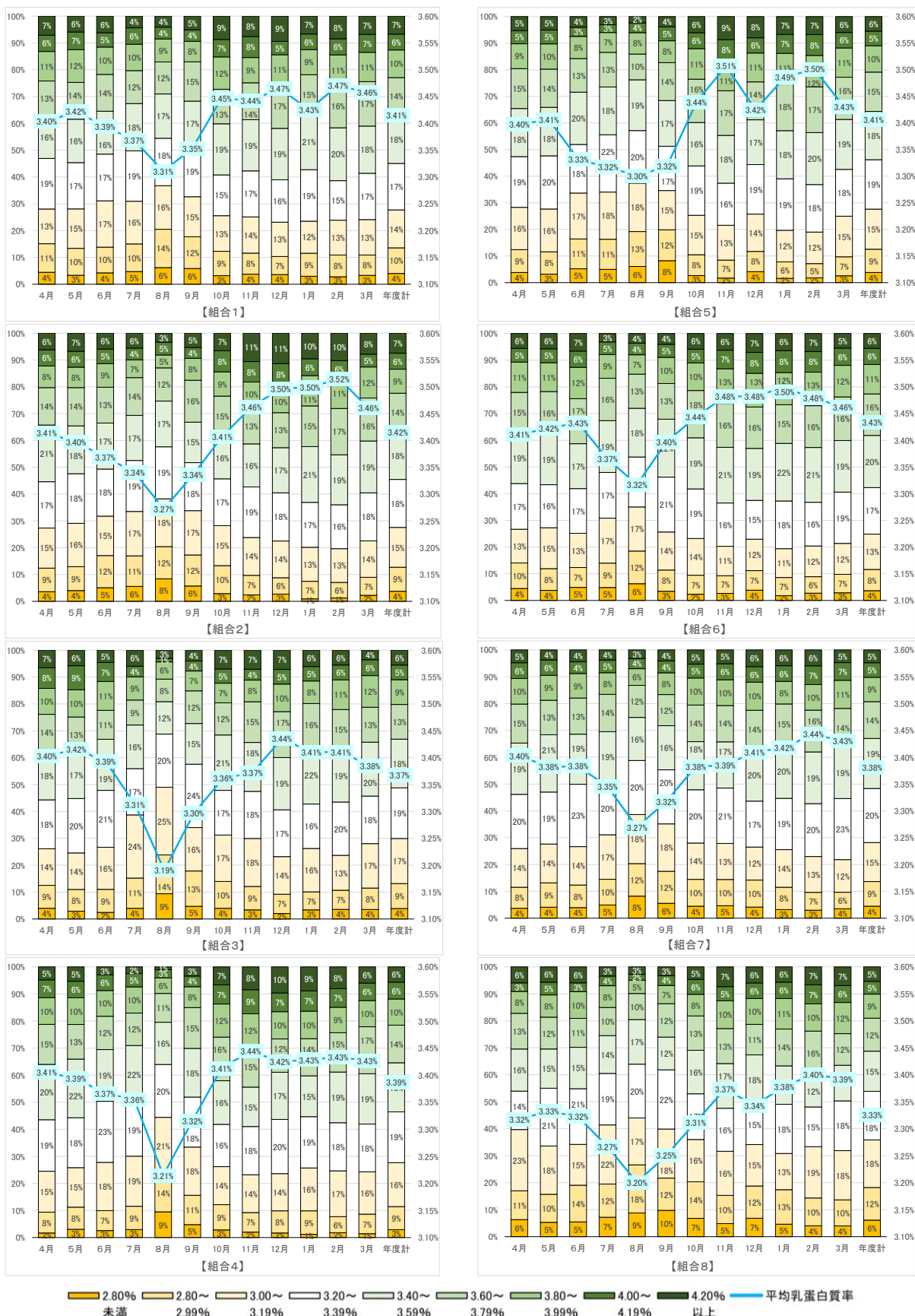


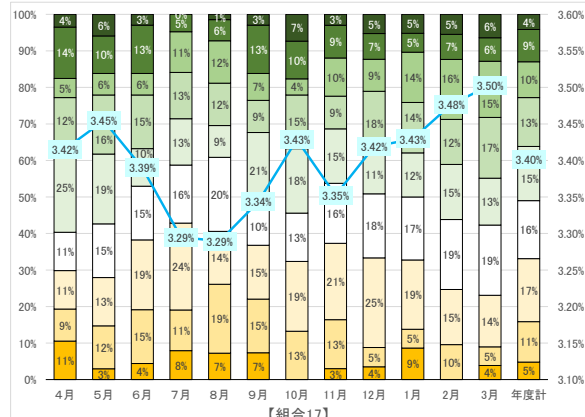
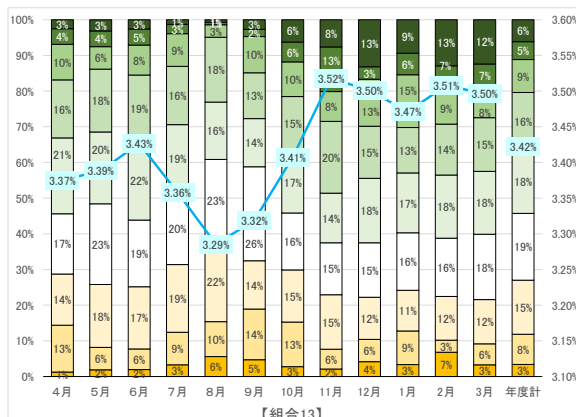
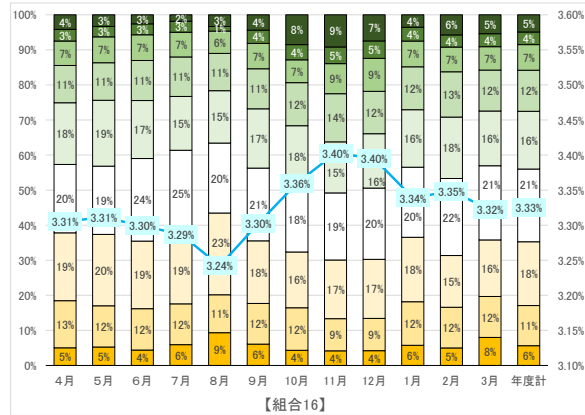
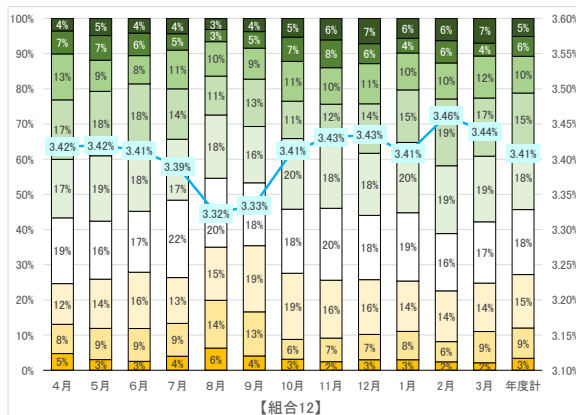
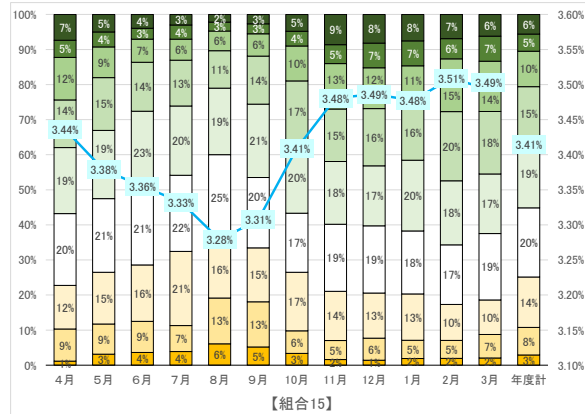
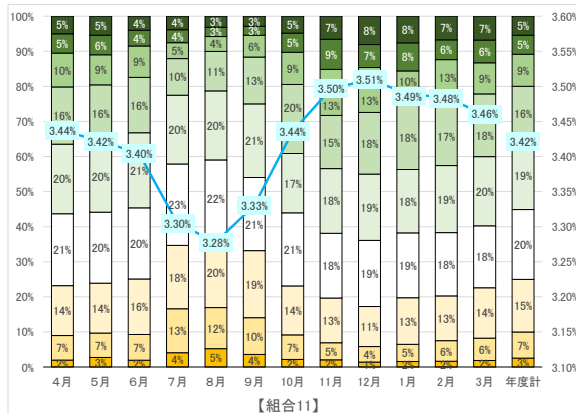
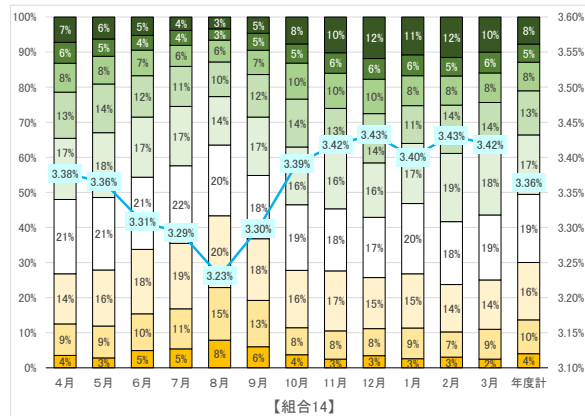
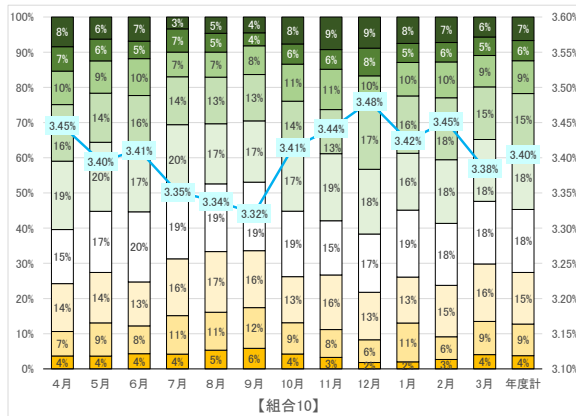
図21 月別・組合別の乳脂肪率の階層別頭数割合と平均乳脂肪率③

(3) 乳蛋白質率の階層別頭数割合と平均乳蛋白質率

一般的に推奨されている乳蛋白質率の数値は、3.2～3.4%であり、低い場合には乾物摂取量不足や、飼料中のエネルギー含量と粗蛋白質含量のバランスが崩れていること等が原因として考えられる。乳蛋白質率の県年度平均は3.40%であった。

県全体の乳蛋白質率階層別の月別頭数割合は、7～9月で3.20%未満が33%以上と多かった。検定組合別においても3.20%未満の階層の頭数割合は、5～9月に多くなる傾向にあり、20組合中17組合で8月が最も多くなった。





2.80%未満
 2.80~2.99%
 3.00~3.19%
 3.20~3.39%
 3.40~3.59%
 3.60~3.79%
 3.79%
 3.99%
 4.19%
 4.20%以上
 — 平均乳蛋白質率

図23 月別・組合別の乳蛋白質率の階層別頭数割合と平均乳蛋白質率②

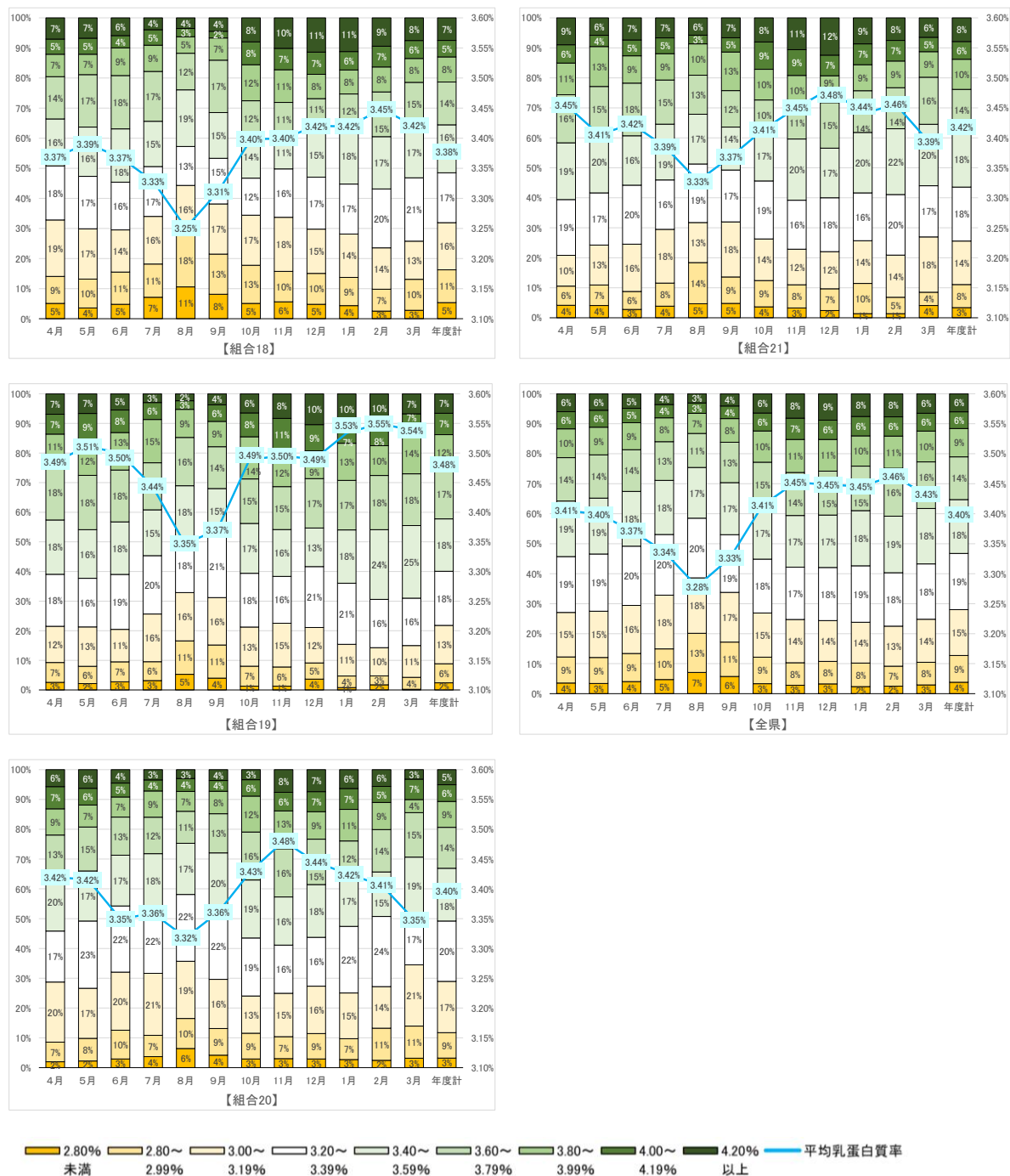


図24 月別・組合別の乳蛋白質率の階層別頭数割合と平均乳蛋白質率③

(4) 無脂固形分率の階層別頭数割合と平均無脂固形分率

無脂固形分率は、エネルギーの充足率を示す指標であり、低ければエネルギーの不足が原因として考えられる。無脂乳固形分率の県年度平均は8.83%と前年の8.81%を上回った。

県全体の無脂乳固形分率階層別の月別頭数割合は、8～9月で8.60%未満が多かった。検定組合別においても8.60%未満の階層の頭数割合が、8～9月に多くなる傾向にあった。

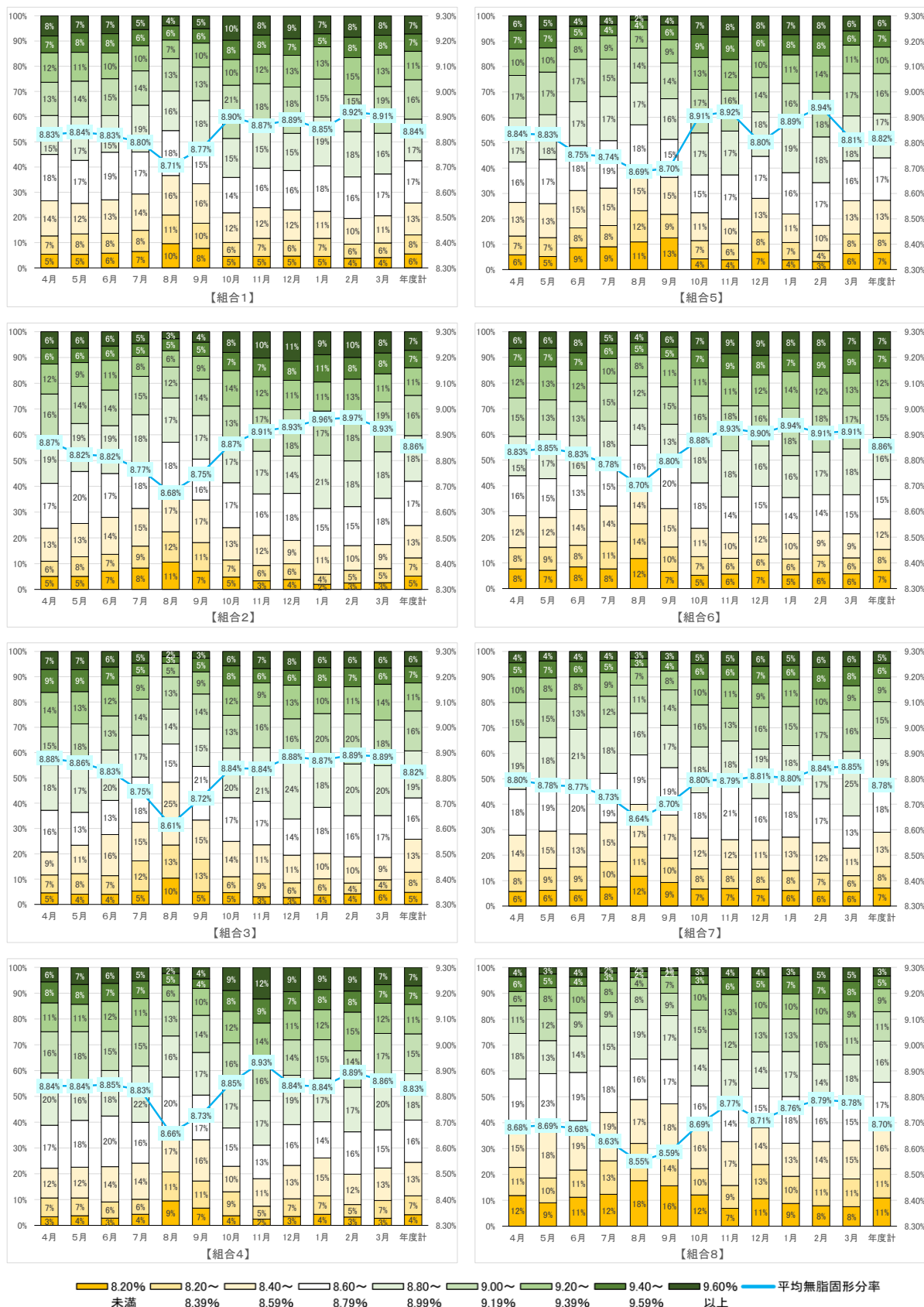
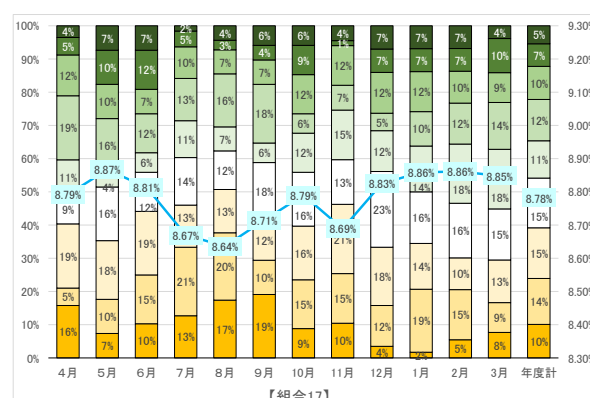
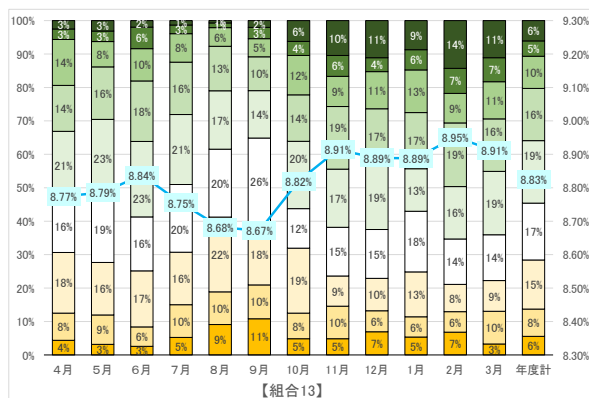
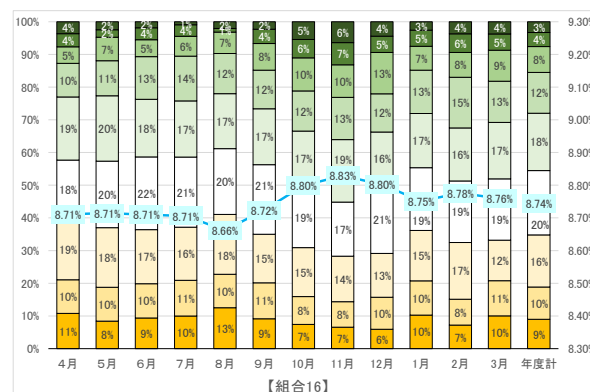
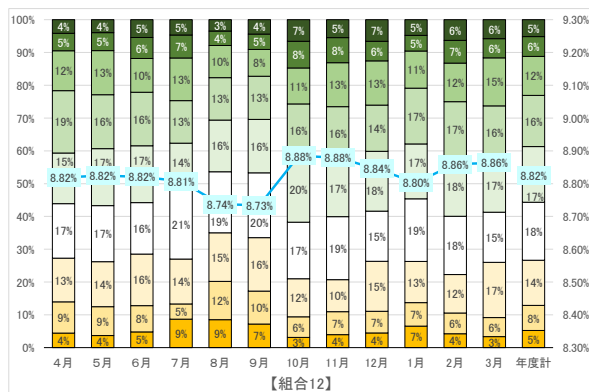
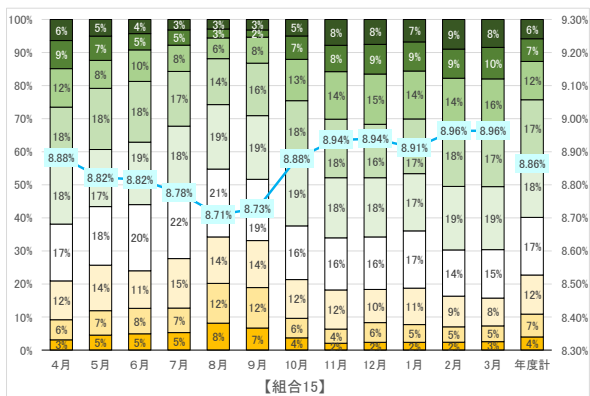
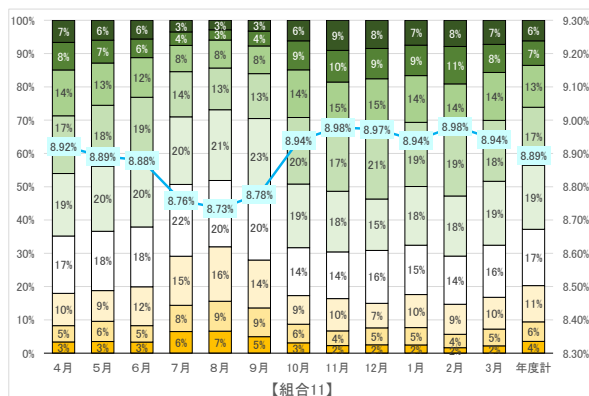
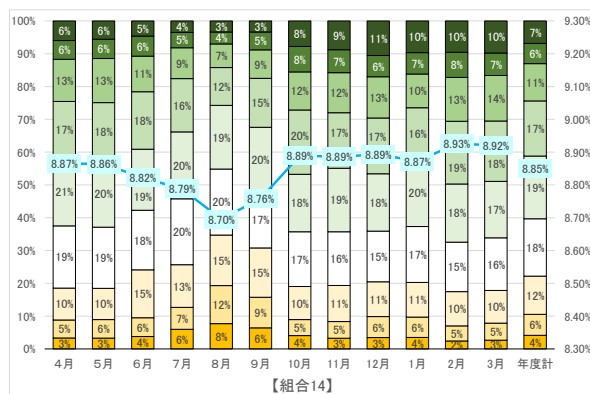
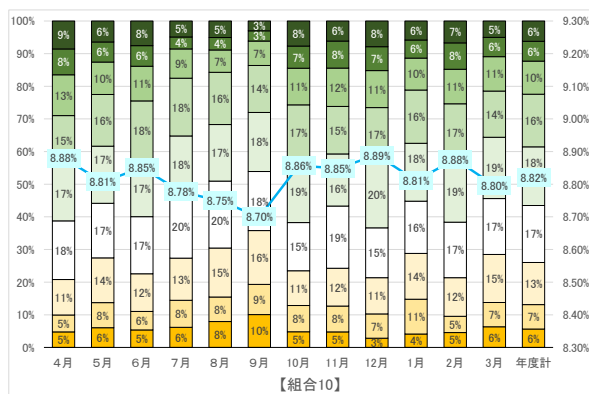
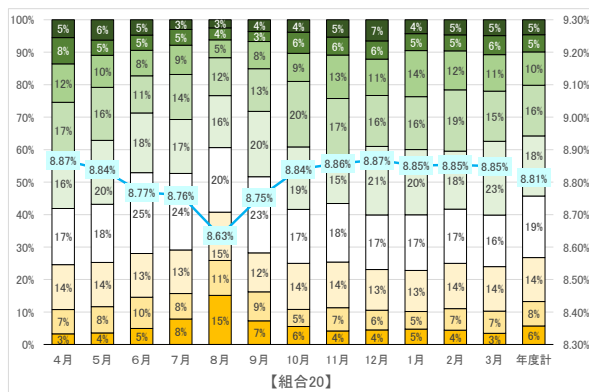
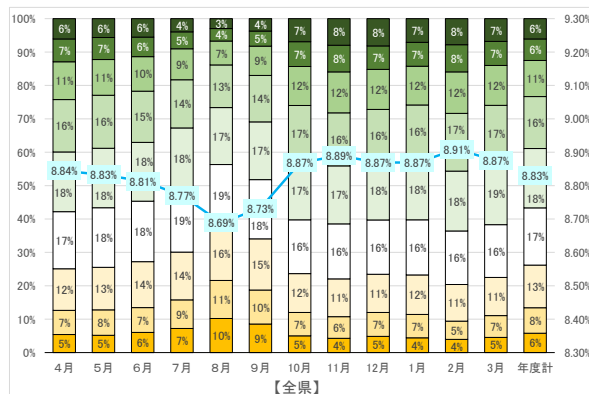
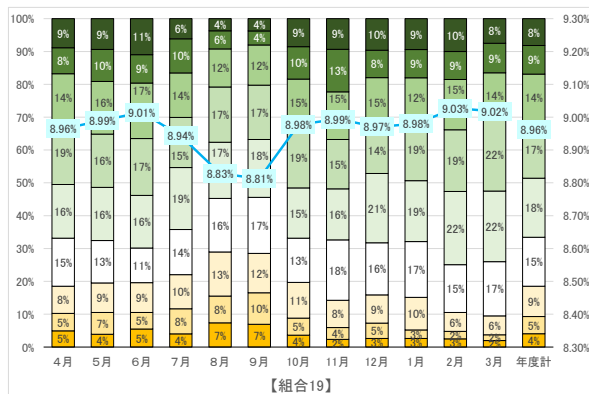
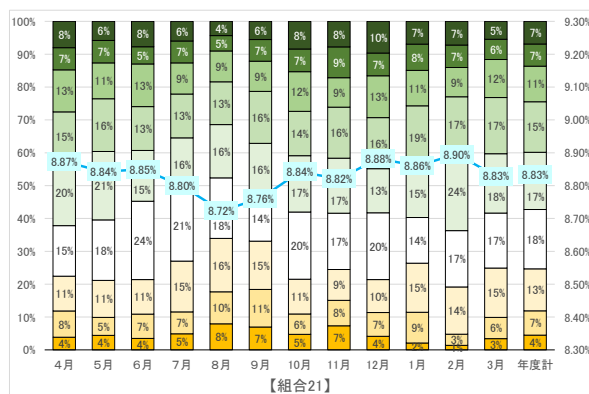
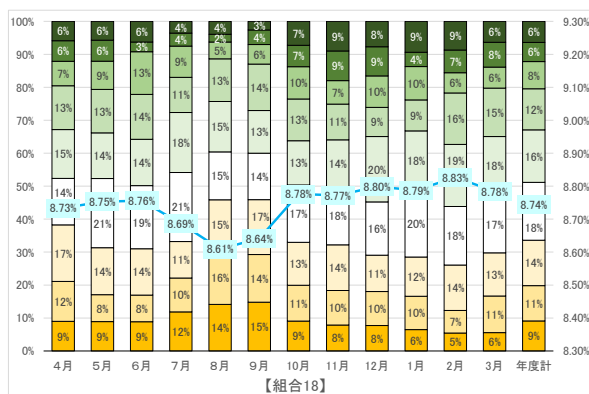


図25 月別・組合別の無脂固形分率の階層別頭数割合と平均無脂固形分率①



8.20%未満
 8.20～8.39%
 8.40～8.59%
 8.60～8.79%
 8.80～8.99%
 9.00～9.19%
 9.20～9.39%
 9.40～9.59%
 9.60%以上
 平均無脂固形分率

図26 月別・組合別の無脂固形分率の階層別頭数割合と平均無脂固形分率②



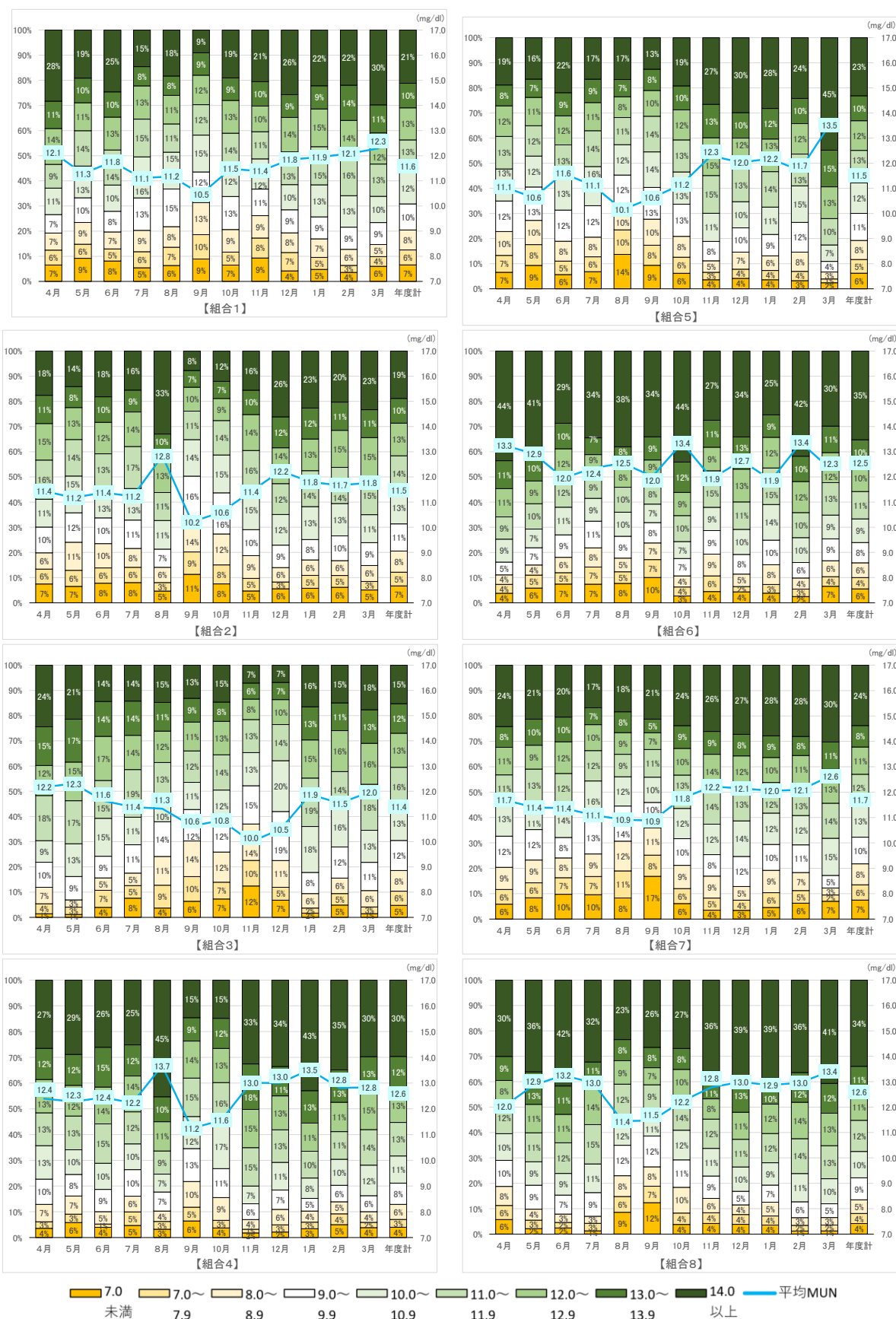
8.20%未満
 8.20～8.39%
 8.40～8.59%
 8.60～8.79%
 8.80～8.99%
 9.00～9.19%
 9.20～9.39%
 9.40～9.59%
 9.60%以上
 — 平均無脂固形分率

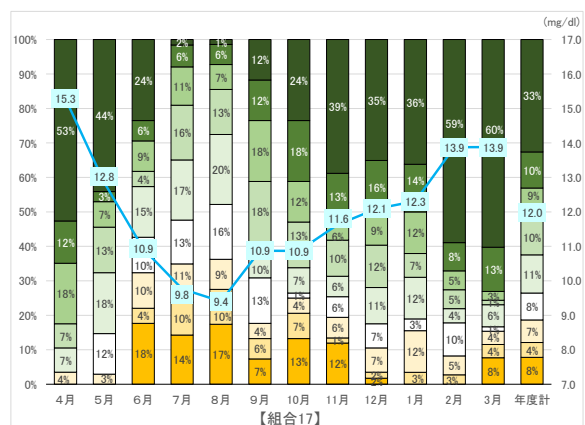
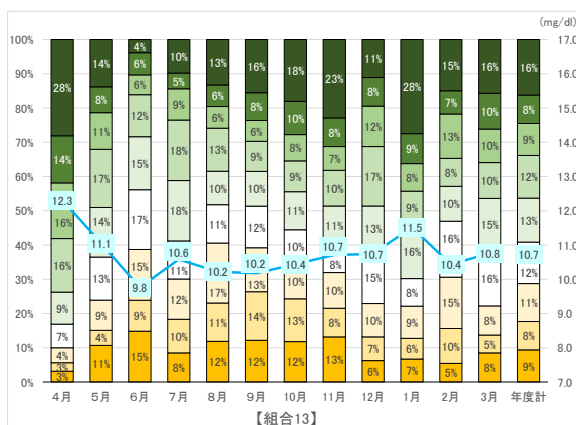
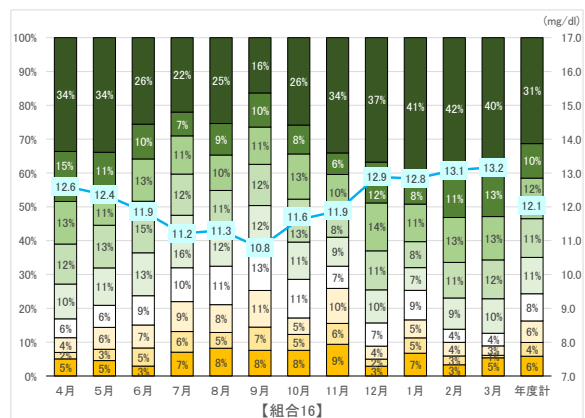
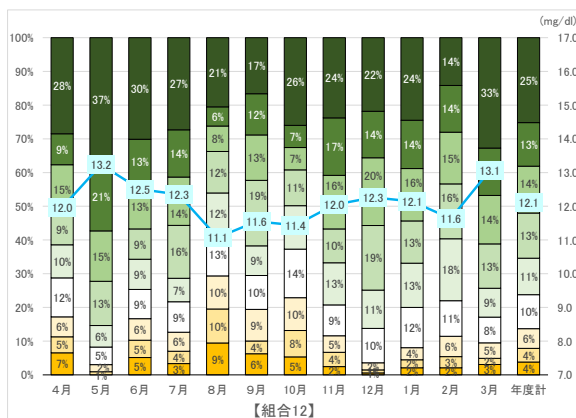
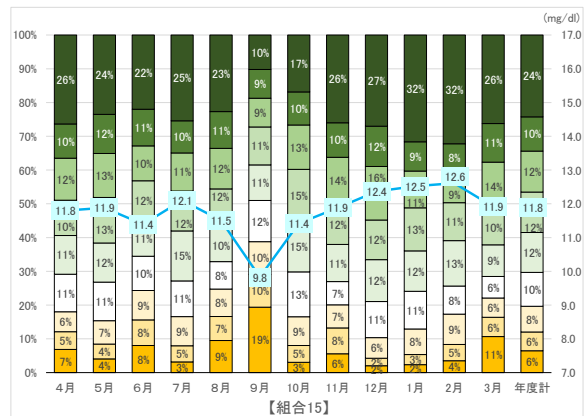
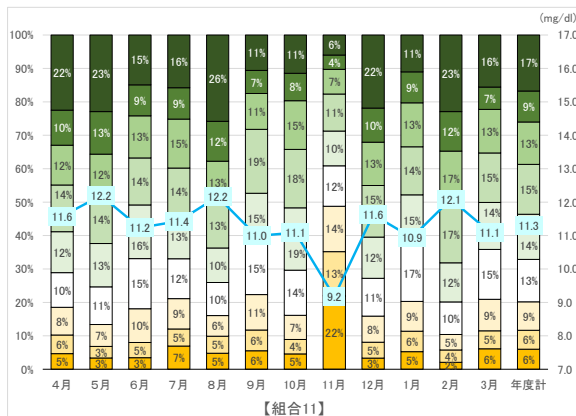
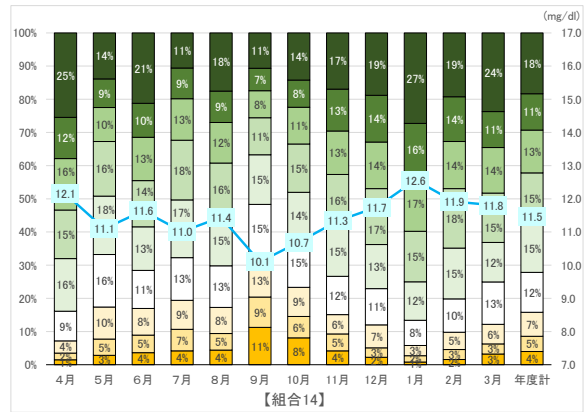
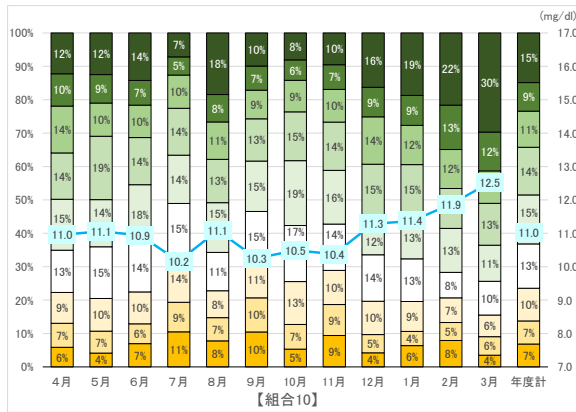
図27 月別・組合別の無脂固形分率の階層別頭数割合と平均無脂固形分率③

(5) 乳中尿素態窒素(MUN)の階層別頭数割合と平均MUN

MUNは飼料中の蛋白質とエネルギーのバランスを示す指標であり、一般的に推奨されているパルク乳におけるMUNの数値は10～14mg/dlである。MUNが高い場合には飼料中のエネルギー不足や蛋白質過剰、低い場合には蛋白質給与量不足が原因として考えられる。

県全体のMUN階層別頭数割合は、8.0mg/dl未満が11%（前年度14%）、14.0mg/dl以上が23%（前年度19%）であった。県年度平均は11.6mg/dlであった。検定組合別では、花北が年度平均9.6%と低くなった。滝沢と東部（岩手他）は、9～15%と月別変動が大きかった。





7.0 未満
 7.0~7.9
 8.0~8.9
 9.0~9.9
 10.0~10.9
 11.0~11.9
 12.0~12.9
 13.0~13.9
 14.0 以上
 — 平均MUN

図29 月別・組合別の乳中尿素態素(MUN)の階層別頭数割合と平均MUN②

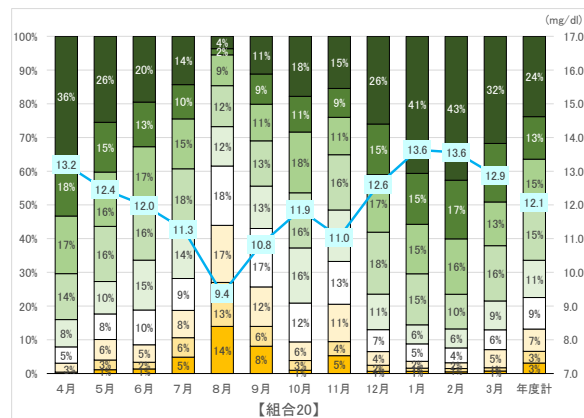
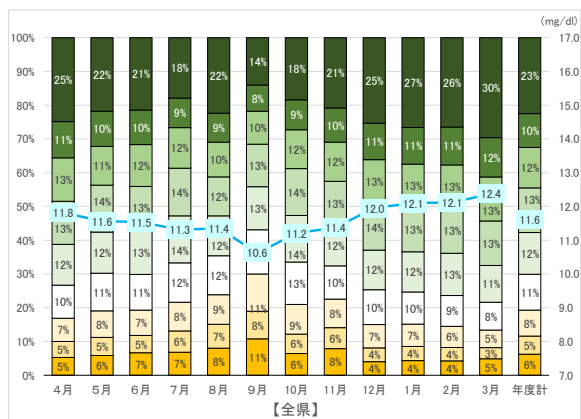
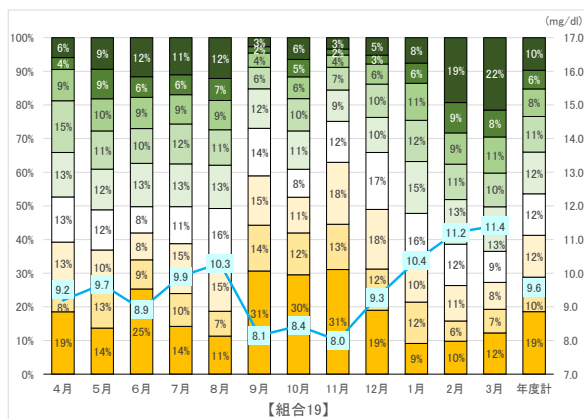
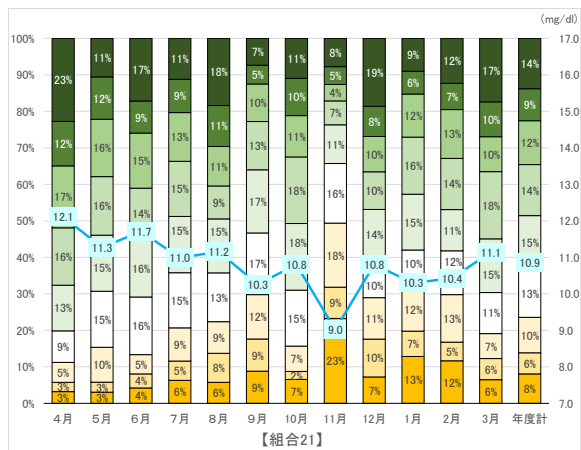
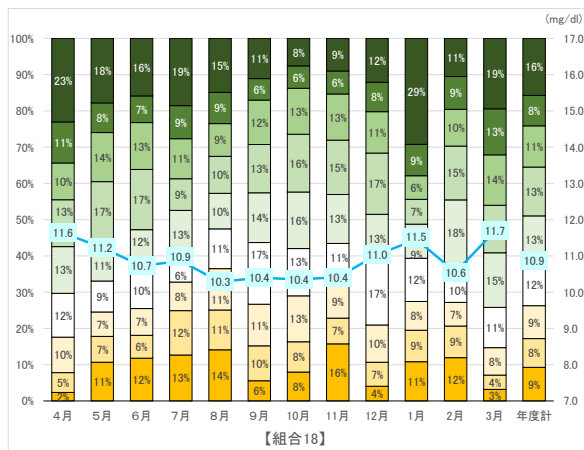


図30 月別・組合別の乳中尿素態素(MUN)の階層別頭数割合と平均MUN③

(6)体細胞数の階層別頭数割合と平均体細胞数

県全体の体細胞数リニアスコア別の月別頭数割合は、年度を通してスコア3以下が70%を超えた。一方、8～11月でスコア6以上が8%以上と高く、暑熱の影響を受けたものと考えられる。体細胞数の年度平均は176千個/mlと、前年度192千個/mlより16千個/ml減少しており、全国平均(209.6千個/ml)より少なかった。

東北地域統一乳価テーブルの乳質格差制度では、体細胞数が30万/ml以上で乳価が下がる。リニアスコアでは、5以上が乳価が下がる階層にあり、全県で13%を占めたが、前年度(15%)よりも減少した。

リニアスコア	細胞数(万/ml)	
9	453.6	～
8	226.3	～ 452.5
7	113.2	～ 226.2
6	56.6	～ 113.1
5	28.3	～ 56.5
4	14.2	～ 28.2
3	7.1	～ 14.1
2	3.6	～ 7.0
1	1.8	～ 3.5
0	0	～ 1.7

■3以下 □4 ■5 ■6以上 —平均体細胞数

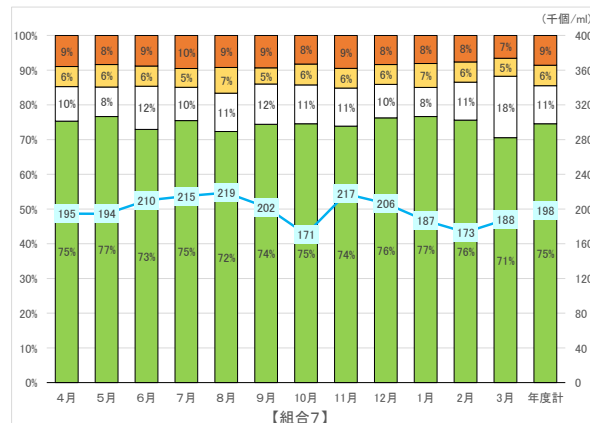
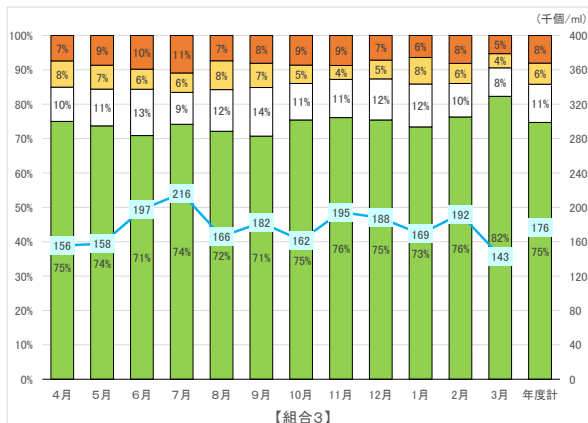
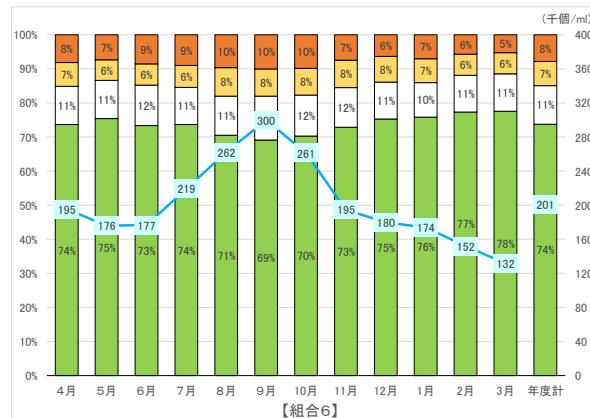
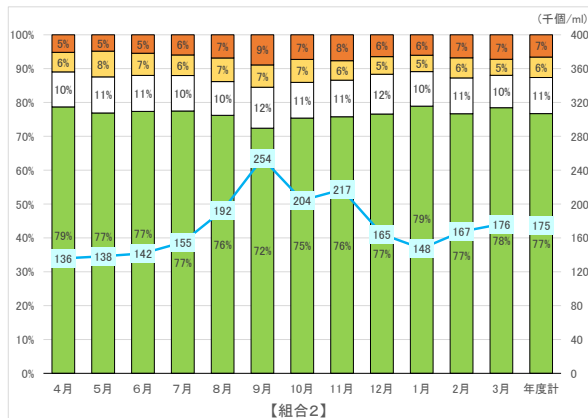
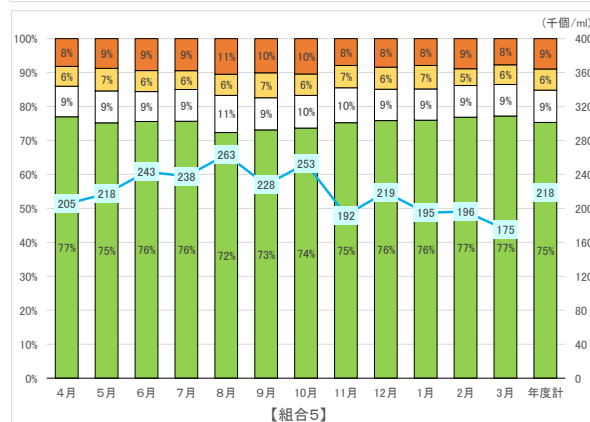
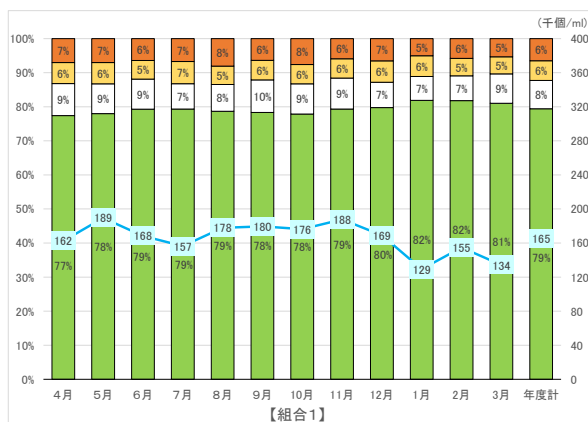
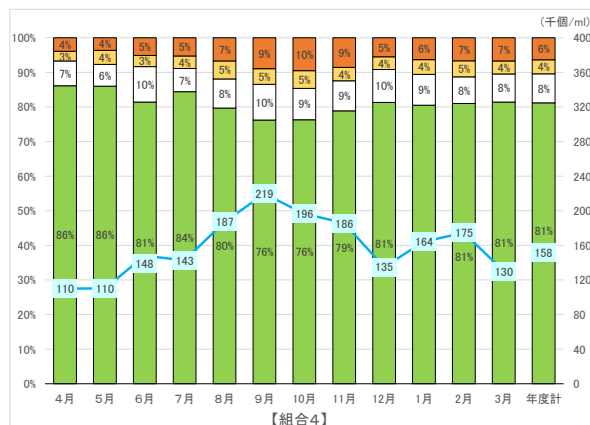
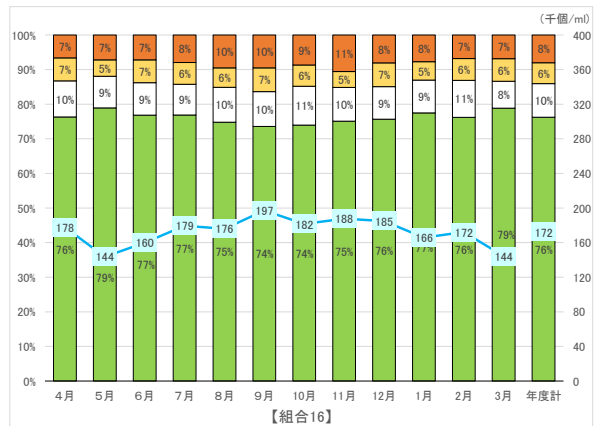
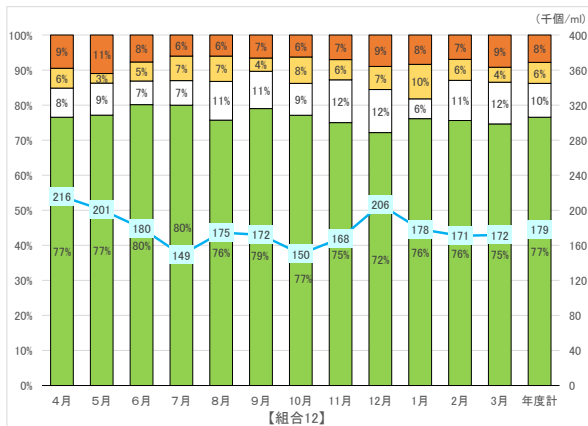
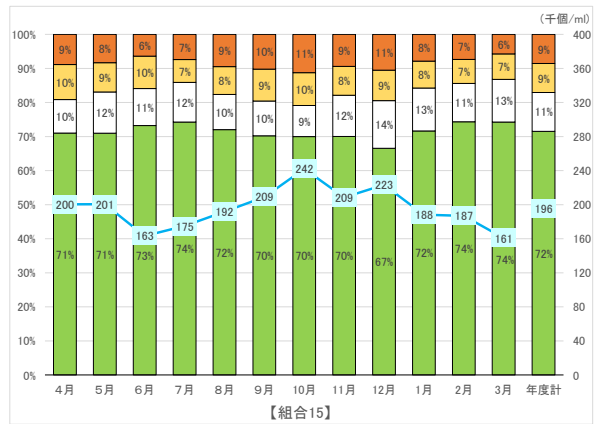
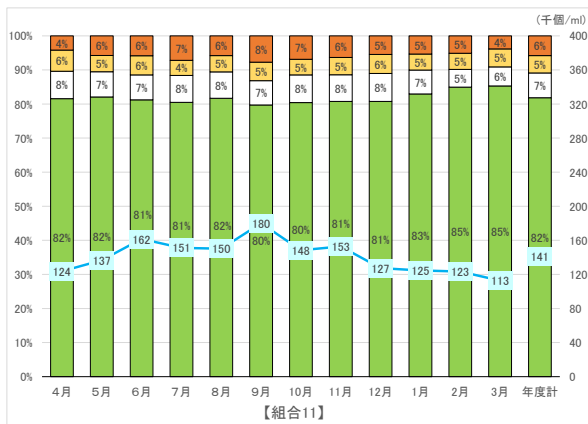
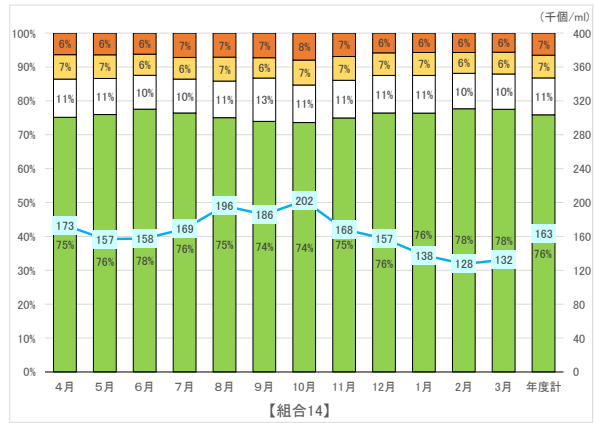
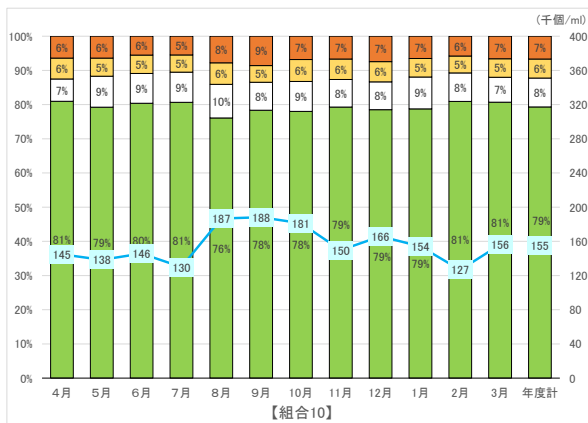
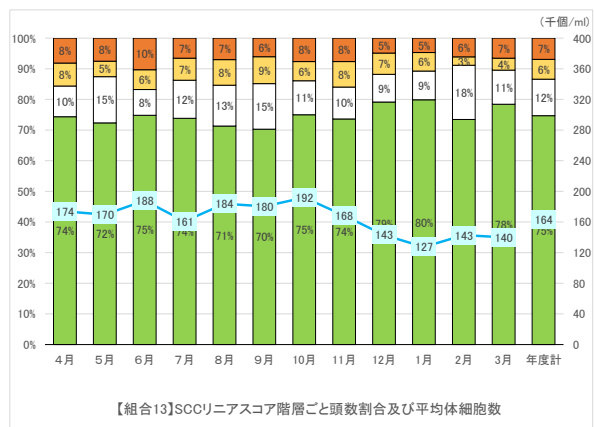
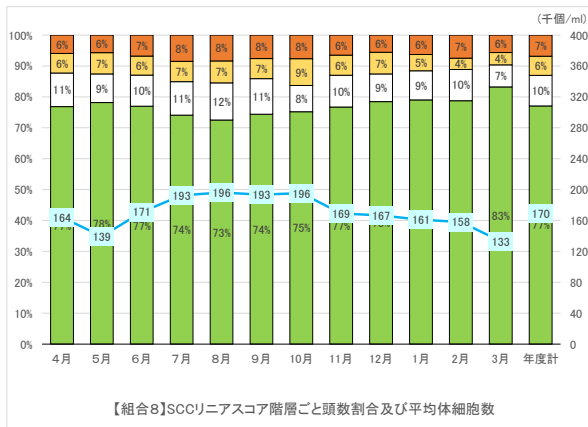
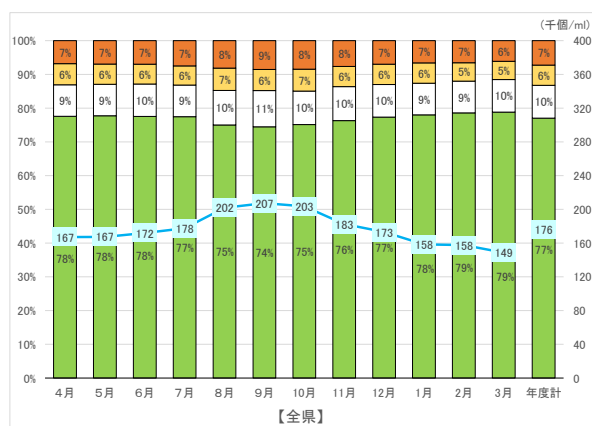
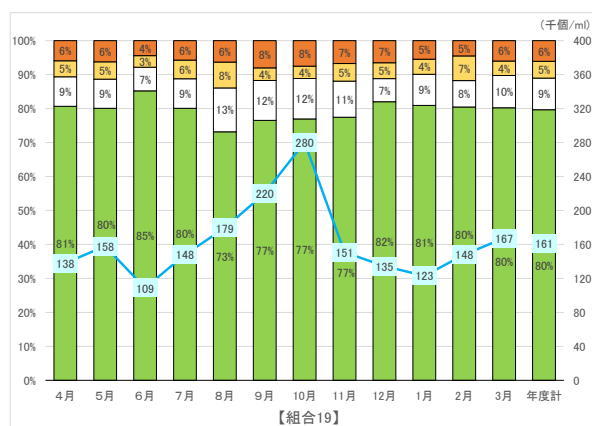
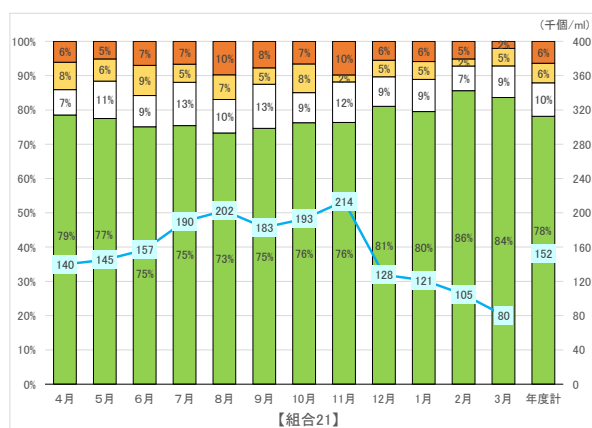
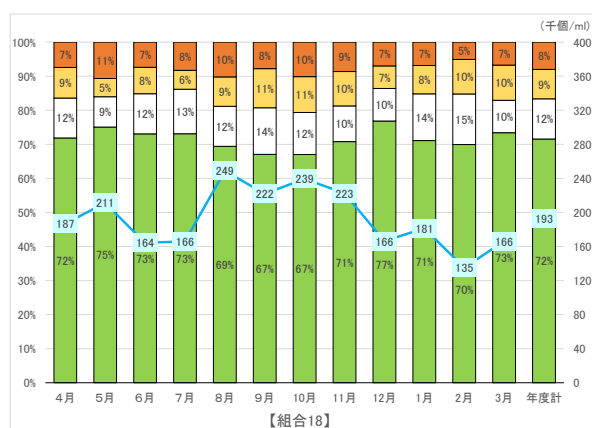
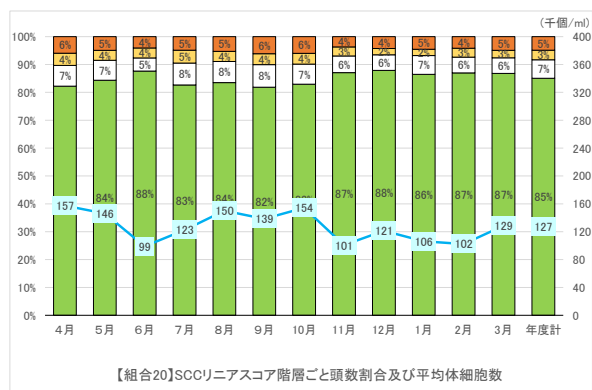
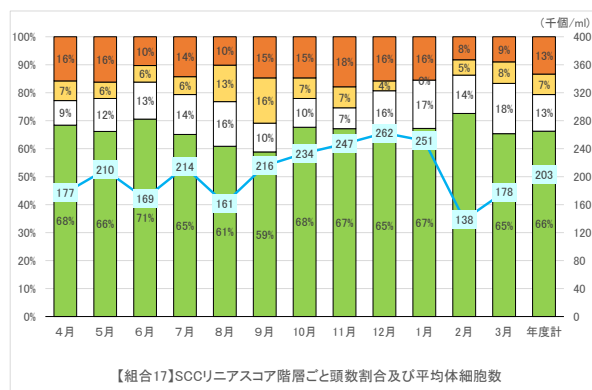


図31 月別・組合別の体細胞数の階層別頭数割合と平均体細胞数①



■ 3以下 □ 4 ■ 5 ■ 6以上 — 平均体細胞数

図32 月別・組合別の体細胞数の階層別頭数割合と平均体細胞数②



■3以下 □4 ■5 ■6以上 —平均体細胞数

図33 月別・組合別の体細胞数の階層別頭数割合と平均体細胞数③

(7) 繁殖に関する成績

①産次別空胎日数と授精回数

県全体の経産牛における平均空胎日数は170日、平均授精回数は2.3回と前年度と概ね同様であった。また、平均空胎日数は、全国平均(152日)より18日長かった。

初産次の空胎日数は171日、2～5産次までの空胎日数は169～172日と、初産と2産次以降は同等となっている。

検定組合別の空胎日数は、奥中山(154日)が最も短く、全国平均(152日)と同程度であった。

表8 組合別・産次別の頭数、空胎日数及び授精回数

組合	項目	産次														経産計
		全産次	未經産	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
1 (葛巻/葛巻)	頭数	1,595	180	568	351	274	155	40	20	4	2	0	1	0	1,415	
	空胎日数			173	168	172	167	172	139	96	122		252		170	
	授精回数			2.1	2.4	2.2	2.2	2.3	2.2	1.3	2.0		4.0		2.2	
2 (金ヶ崎/金ヶ崎)	頭数	1,441	217	556	369	190	67	31	9	2	0	0	0	0	1,224	
	空胎日数			206	206	203	206	210	261	145					206	
	授精回数			2.3	2.4	2.5	2.7	1.8	3.4	1.5					2.4	
3 (金ヶ崎/奥州・大船渡他)	頭数	715	169	220	170	85	50	14	7	0	0	0	0	0	546	
	空胎日数			164	164	156	155	137	148						161	
	授精回数			2.2	2.3	2.1	2.0	1.8	1.7						2.2	
4 (南部/雫石)	頭数	1,518	17	511	390	311	174	73	28	13	1	0	0	0	1,501	
	空胎日数			194	166	171	179	188	200	181	118				180	
	授精回数			2.3	2.0	2.0	2.1	2.0	2.3	2.3	1.0				2.1	
5 (久慈)	頭数	3,057	231	1,012	819	572	270	98	40	9	3	0	3	0	2,826	
	空胎日数			161	154	154	158	154	164	132	157		280		157	
	授精回数			2.5	2.5	2.4	2.6	2.2	2.3	1.8	1.7		2.0		2.5	
6 (花平)	頭数	1,772	437	500	399	264	111	46	10	4	1	0	0	0	1,335	
	空胎日数			175	177	186	170	212	216	157	122				179	
	授精回数			2.2	2.2	2.2	1.8	1.9	1.9	1.5	2.0				2.1	
7 (葛巻/江刈)	頭数	1,870	340	527	431	291	146	72	34	21	6	2	0	0	1,530	
	空胎日数			160	163	168	165	180	182	133	126	142			164	
	授精回数			1.9	1.9	1.9	1.8	2.2	2.2	1.7	1.5	1.5			1.9	
8 (磐井)	頭数	846	133	264	189	129	65	31	16	11	5	2	1	0	713	
	空胎日数			187	202	192	199	207	192	167	152	119	57		193	
	授精回数			1.8	2.0	1.9	2.1	2.0	2.1	1.9	2.0	2.0	1.0		1.9	
10 (岩中酪/八幡平・滝沢・盛岡他)	頭数	1,292	97	429	336	269	108	41	10	1	1	0	0	0	1,195	
	空胎日数			180	164	182	165	176	181	56	93				174	
	授精回数			2.7	2.4	2.5	2.1	2.5	2.6	1.0	6.0				2.5	
11 (岩中酪/二戸、岩手、盛岡他)	頭数	1,797	540	577	342	209	82	27	15	4	1	0	0	0	1,257	
	空胎日数			158	167	183	169	163	195	229	63				166	
	授精回数			2.0	2.1	2.4	2.0	2.2	2.5	3.3	1.0				2.1	
12 (八幡平/松尾・寄木)	頭数	522	1	179	140	92	72	27	9	2	0	0	0	0	521	
	空胎日数			161	176	149	162	167	131	226					163	
	授精回数			2.4	2.4	2.3	2.1	2.6	2.4	2.0					2.3	
13 (遠野)	頭数	245	0	92	65	43	18	18	4	4	1	0	0	0	245	
	空胎日数			188	181	180	151	164	244	170	80				180	
	授精回数			2.3	2.5	2.8	1.8	2.4	2.8	1.8	1.0				2.4	
14 (奥中山)	頭数	2,121	74	820	565	335	195	80	29	8	6	5	2	2	2,047	
	空胎日数			154	158	147	155	149	166	122	152	297	161	176	154	
	授精回数			2.6	2.7	2.5	2.5	2.4	2.3	1.8	2.3	3.6	2.0	3.5	2.6	
15 (八幡平/その他)	頭数	1,044	35	383	273	199	105	34	11	2	0	2	0	0	1,009	
	空胎日数			169	169	177	178	165	131	217		225			171	
	授精回数			2.2	2.3	2.3	2.3	2.2	1.9	3.0		1.5			2.3	
16 (宮古)	頭数	977	100	337	235	153	100	35	7	7	3	0	0	0	877	
	空胎日数			166	178	170	162	145	102	323	128				169	
	授精回数			2.0	2.3	2.0	1.8	2.2	1.3	2.7	2.0				2.0	
17 (南部/滝沢)	頭数	115	11	36	30	16	11	8	2	0	0	0	1	0	104	
	空胎日数			164	198	225	193	196	171				198		189	
	授精回数			1.9	2.0	2.0	1.8	2.1	2.5				1.0		2.0	
18 (東部/旧玉山)	頭数	441	23	177	130	62	31	14	1	3	0	0	0	0	418	
	空胎日数			179	182	195	176	159	66	255					181	
	授精回数			2.3	2.3	2.5	2.0	1.9	1.0	3.3					2.3	
19 (花北)	頭数	715	18	274	197	113	74	29	7	2	1	0	0	0	697	
	空胎日数			158	161	193	198	179	196	158	106				170	
	授精回数			2.0	2.1	2.4	2.1	2.0	2.3	1.0	1.0				2.1	
20 (東部/岩手他)	頭数	626	11	281	188	95	30	11	4	3	1	1	1	0	615	
	空胎日数			166	153	153	142	105	144	143	131	335	306		158	
	授精回数			2.6	2.5	2.3	2.4	1.8	1.5	2.0	2.0	7.0	4.0		2.5	
21 (九戸軽米)	頭数	443	0	207	141	66	20	7	2	0	0	0	0	0	443	
	空胎日数			174	165	186	189	134	102						172	
	授精回数			2.2	2.2	2.3	3.0	2.7	2.0						2.3	
全県	頭数	23,152	2,634	7,950	5,760	3,768	1,884	736	265	100	32	12	9	2	20,518	
	空胎日数			171	169	172	169	171	174	168	133	233	219	176	170	
	授精回数			2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.0	1.9	2.9	2.2	3.5	2.3	

※ 令和6年度に受胎中(受胎授精が2022年6月以降)の乳用牛における結果。(未經産牛は頭数のみ記載)

※ 空胎日数が長いもの及び授精回数が多いもののほど、色が濃くなっている。

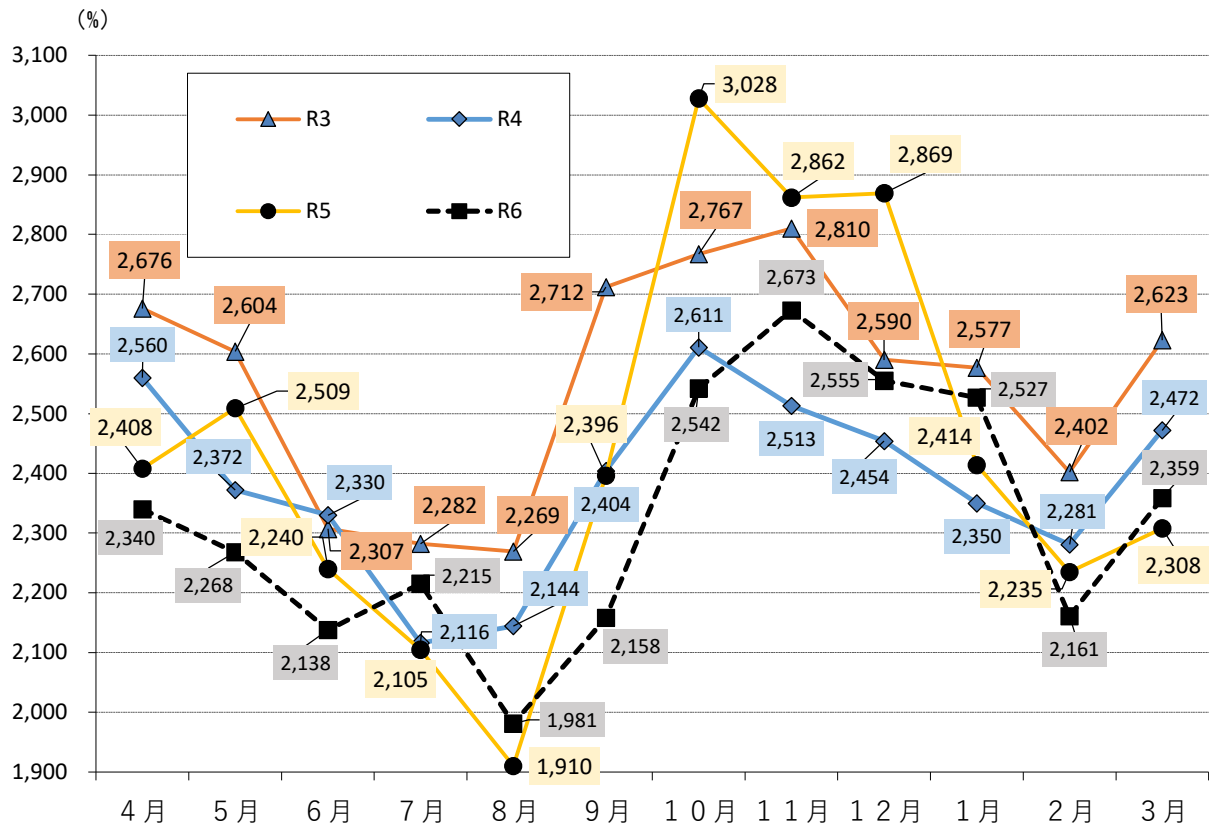


図34 月別授精回数の推移

②初回授精日数と初回授精率等

県全体の初回授精日数の平均は106日と前年度と同数値であり、全国平均(93日)より13日長かった。県全体の初回授精受胎率の平均は43.6%と前年度(43.3%)より増加した。初回授精で受胎した直後の検定時乳量は平均33.9kg(前年度32.8kg)であった。金ヶ崎(奥州・大船渡他)、久慈、岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)、花北は、36kgを超えているが、初回授精受胎率が4割以上であり、乳量が出ていても受胎していることがわかった。

検定組合別では、初回授精日数は78～134日まで最大56日、平均空胎日数も154～206日まで最大52日の差があった。空胎日数が1日延びることによる経済的損失は1,200円と言われていることから、空胎日数206日の場合、154日より1頭当たり62,400円損失があると考えられる。

空胎日数を短縮するためには、飼養環境の向上やステージに応じた栄養管理による、分娩後早い時期での発情回帰と子宮回復、発情の見逃しの低減などが必要である。

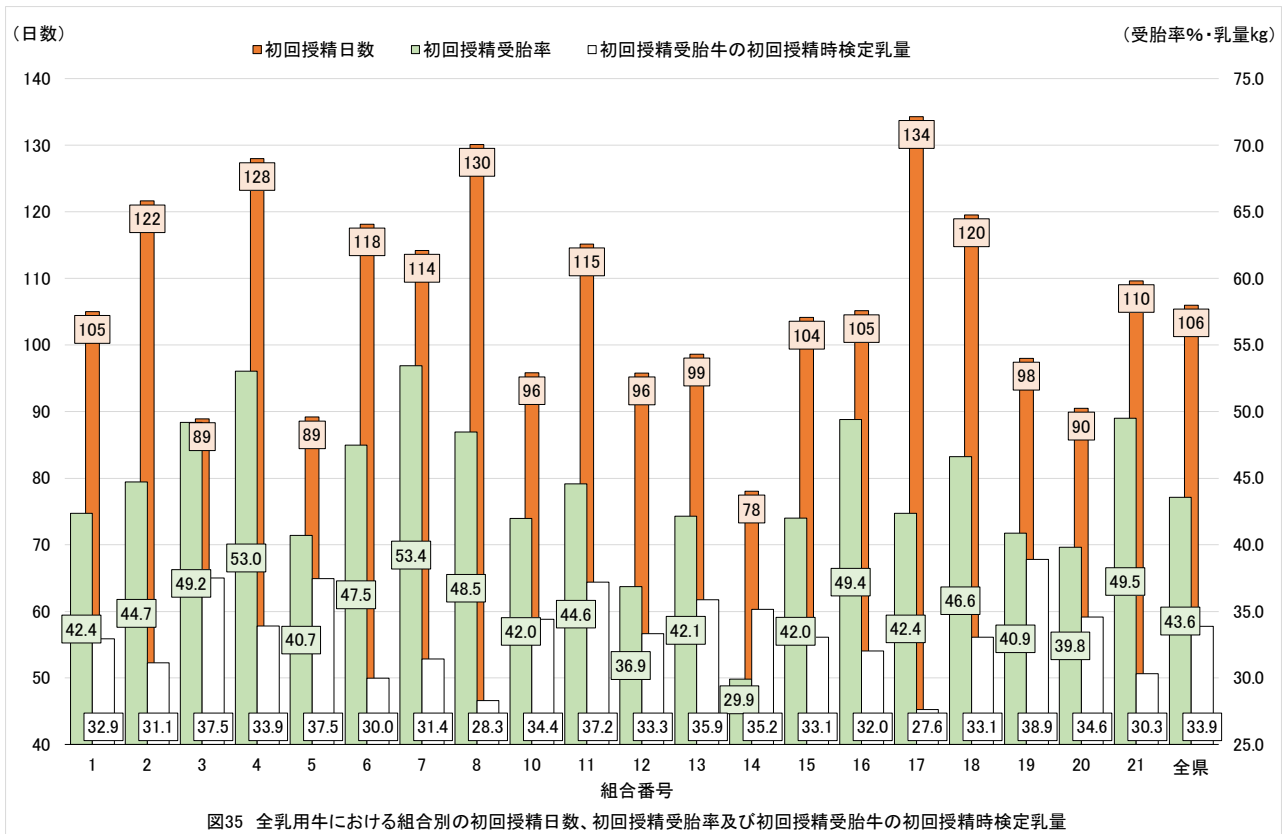


図35 全乳用牛における組合別の初回授精日数、初回授精受胎率及び初回授精受胎牛の初回授精時検定乳量

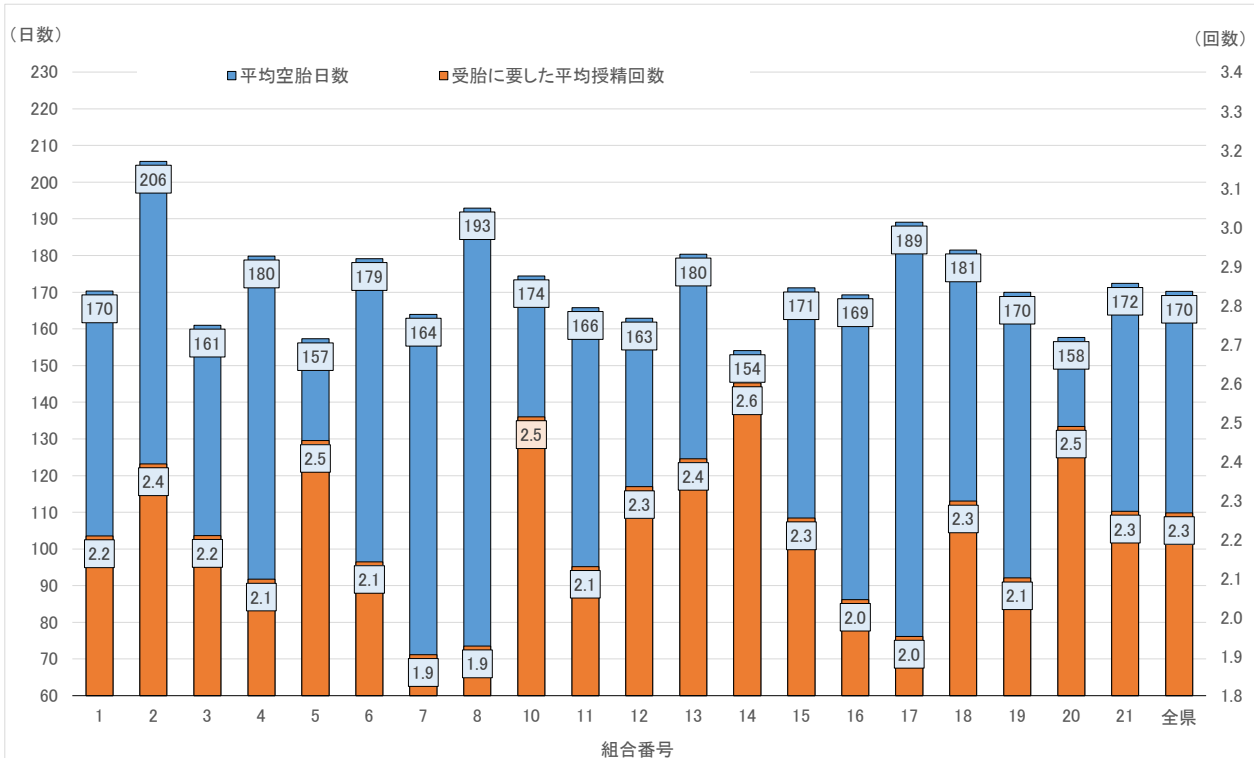


図36 全乳用牛における組合別の空胎日数及び受胎に要した授精回数

③産次別の分娩頭数及び月別の分娩頭数

県全体では年間に13,275頭が分娩しており、産次別の分娩頭数の割合は、初産次が33.3% (4,423頭)と最も多く、産次を経るごとに減少した。生涯生産性の向上を図るため、乳器や肢蹄等の障害を起こさないような飼養管理により、供用期間の延長や長命連産性の向上に取り組む必要がある。

月別の分娩頭数について、4～6月が1,000頭未満と、他の月に比べて少なかった。4～6月の分娩は、前年の7～9月の受胎であり、この期間の分娩が少ないのは、暑熱の影響による授精と受胎頭数の減少が原因と考えられる。

表9 検定組合別・産次別の分娩頭数及び全県の検定月別・産次別の分娩頭数

組合		産次別分娩頭数												産次計
		初産次	2産次	3産次	4産次	5産次	6産次	7産次	8産次	9産次	10産次	11産次	12産次	
1(葛巻/葛巻)		306	224	154	112	57	14	5	0	2	0	0	0	874
2(金ヶ崎/金ヶ崎)		253	248	130	53	20	8	4	2	0	0	0	0	718
3(金ヶ崎/奥州・大船渡他)		109	92	69	37	24	6	4	0	0	0	0	0	341
4(南部/雫石)		284	271	193	145	85	37	11	4	1	0	0	0	1,031
5(久慈)		568	494	341	245	115	27	16	5	0	0	1	0	1,812
6(花平)		302	242	191	84	51	15	1	1	1	0	0	0	888
7(葛巻/江刈)		314	228	195	130	51	21	16	10	0	0	0	0	965
8(磐井)		151	109	85	59	23	16	4	3	2	2	0	0	454
10(岩中酪/八幡平・滝沢・盛岡他)		210	222	160	105	28	13	3	0	1	0	0	0	742
11(岩中酪/二戸・岩手・盛岡他)		363	253	162	76	25	8	5	1	0	0	0	0	893
12(八幡平/松尾・寄木)		102	89	66	31	35	11	5	2	0	0	0	0	341
13(遠野)		34	46	33	15	11	8	2	1	0	0	0	0	150
14(奥中山)		493	349	249	142	70	37	10	4	3	1	1	2	1,361
15(八幡平/その他)		244	183	113	70	34	13	3	1	0	0	0	0	661
16(宮古)		172	148	107	71	38	12	3	3	0	0	0	0	554
17(南部/滝沢)		16	17	14	5	6	3	0	0	0	0	0	0	61
18(東部/玉山)		78	103	52	27	10	4	0	1	0	0	0	0	275
19(花北)		152	112	68	41	30	6	2	1	1	0	0	0	413
20(東部/岩手他)		167	142	80	43	10	2	1	1	0	0	1	0	447
21(九戸軽米)		105	92	59	29	5	2	2	0	0	0	0	0	294
合計頭数		4,423	3,664	2,521	1,520	728	263	97	40	11	3	3	2	13,275
産次別頭数割合		33.3%	27.6%	19.0%	11.5%	5.5%	2.0%	0.7%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	—
全県	4月	395	263	147	101	35	18	11	1	0	0	0	0	971
	5月	277	169	115	65	31	13	2	3	1	0	0	0	676
	6月	336	233	127	70	41	12	4	4	0	0	0	0	827
	7月	372	375	247	141	63	28	11	3	0	1	1	0	1,242
	8月	402	422	285	177	92	25	10	4	2	0	0	0	1,419
	9月	377	337	298	189	82	22	12	5	4	0	1	0	1,327
	10月	393	341	281	154	72	30	9	5	1	1	0	1	1,288
	11月	356	327	219	150	69	27	10	3	2	0	0	1	1,164
	12月	366	331	222	122	64	29	8	4	0	0	0	0	1,146
	1月	409	315	218	129	67	23	10	4	1	1	1	0	1,178
	2月	349	255	192	110	57	19	6	1	0	0	0	0	989
	3月	391	296	170	112	55	17	4	3	0	0	0	0	1,048
	年計	4,423	3,664	2,521	1,520	728	263	97	40	11	3	3	2	13,275

④分娩間隔と乾乳日数

県全体の平均分娩間隔は445日（全国平均428日）、平均乾乳日数は64日（前年度63日）であった。平均分娩間隔は、前年度439日より6日伸び、全国平均より17日長かった。検定組合別の分娩間隔は、奥中山が424日以下と全国平均より短かった。乾乳日数は、検定組合別で54～75日と最大21日の差があった。

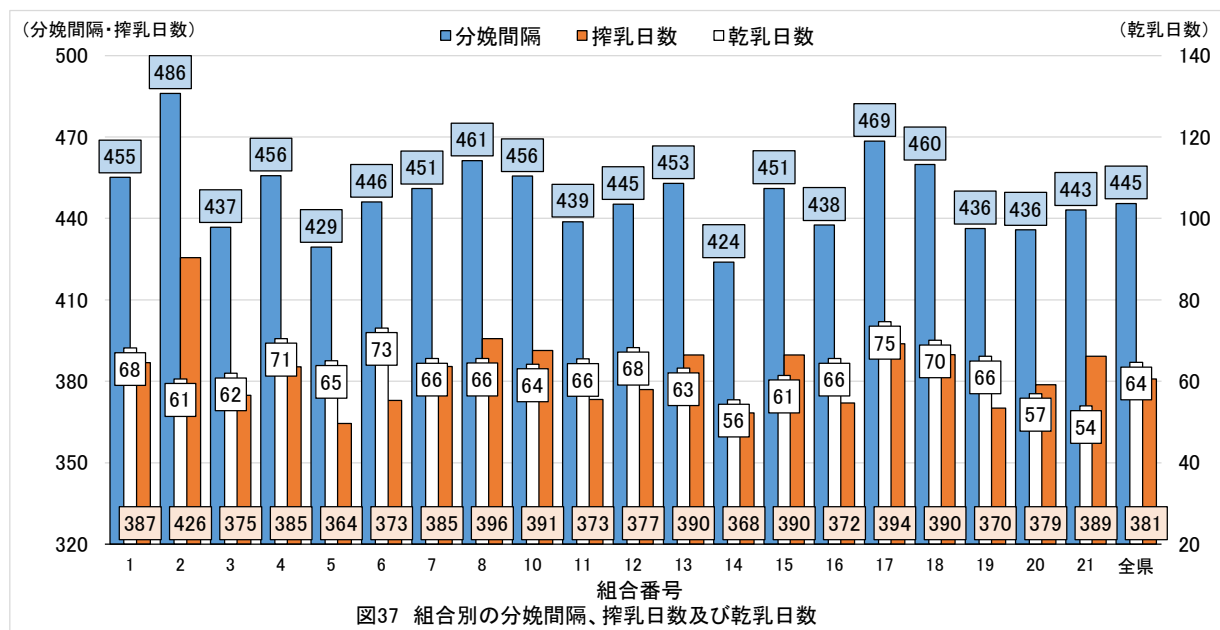


図37 組合別の分娩間隔、搾乳日数及び乾乳日数

(8) 除籍率とその理由

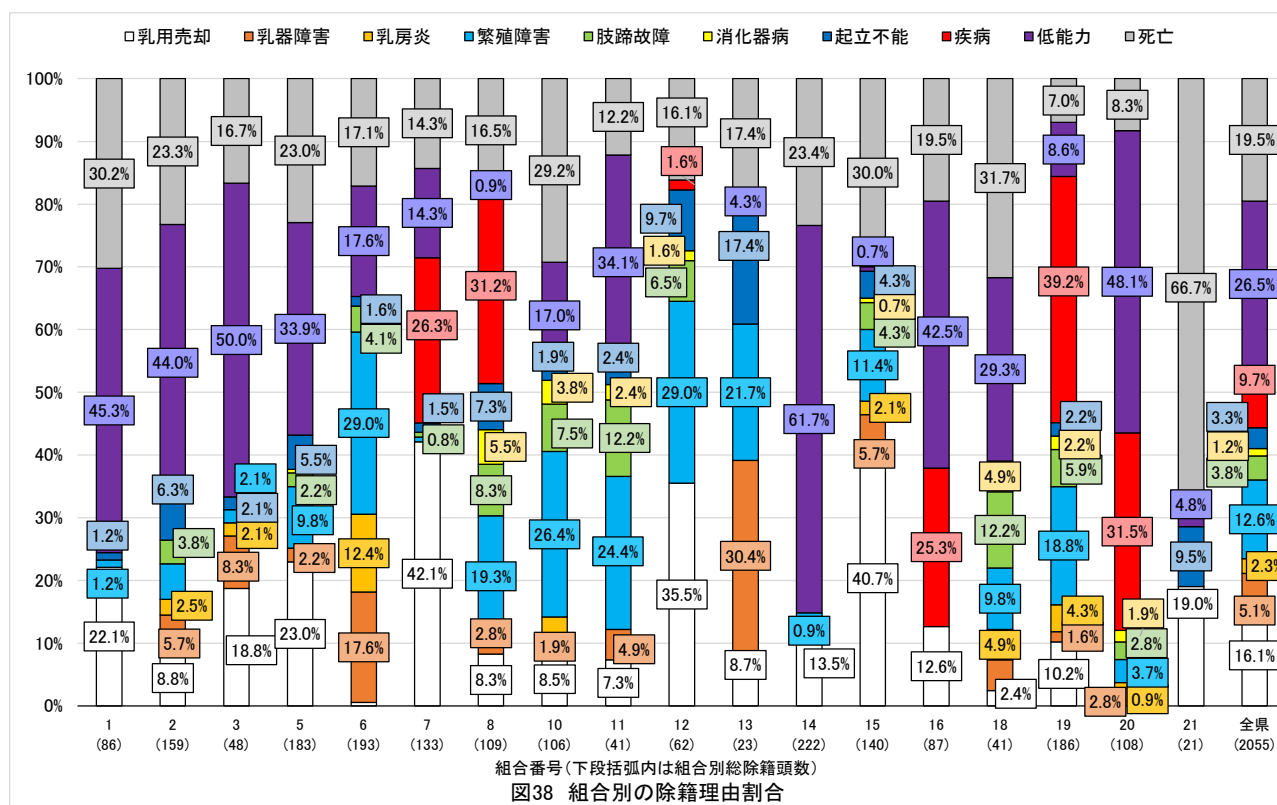
県全体の除籍頭数と除籍率は、2,055頭（前年度2,245頭）、13.1%（同14.1%）であった。産次別除籍率は、7産次まで産次を経るごとに増加した。検定組合別の経産牛の除籍率は、葛巻（葛巻）、南部（雫石）、久慈、岩中酪（二戸・岩手・盛岡他）、南部（滝沢）、九戸軽米が10%未満だった。

県全体の除籍理由とその割合は、低能力26.5%、死亡19.5%、乳用売却16.1%、繁殖障害12.6%、疾病9.7%、乳器障害5.1%、肢蹄障害3.8%、起立不能3.3%、乳房炎2.3%、消化器病1.2%の順であった。

死亡や疾病が30%を超える組合があり、除籍理由を分析し、飼養改善が必要と考える。

表10 組合別の除籍頭数及び産次別の除籍率

組合	除籍頭数		産次別除籍率													経産計
	未経産牛	経産牛	未経産	初産	2産	3産	4産	5産	6産	7産	8産	9産	10産	11産	12産	
1	1	85	1.1%	3.2%	4.7%	13.0%	16.8%	26.7%	4.8%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%			8.0%
2	20	139	10.8%	8.6%	14.9%	25.4%	20.0%	50.0%	37.5%	25.0%	0.0%					15.5%
3	4	44	4.9%	7.7%	8.4%	16.1%	25.6%	26.7%	0.0%	0.0%						12.0%
4	0	106	0.0%	2.2%	3.7%	3.5%	15.3%	37.3%	66.7%	41.7%	50.0%	0.0%		100.0%		9.2%
5	3	180	3.5%	4.8%	5.9%	11.9%	15.4%	27.9%	9.1%	30.8%	0.0%		0.0%	0.0%		9.0%
6	3	190	1.6%	6.9%	16.3%	31.2%	36.0%	29.2%	13.3%	100.0%	0.0%	0.0%				19.0%
7	8	125	5.2%	4.7%	10.3%	12.1%	19.2%	16.1%	28.0%	23.8%	0.0%	0.0%	0.0%			10.7%
8	6	103	10.2%	10.1%	18.7%	18.7%	32.8%	26.7%	25.0%	37.5%	25.0%	0.0%	100.0%			18.4%
10	1	105	2.5%	8.3%	11.4%	12.4%	20.4%	11.4%	37.5%	100.0%	0.0%	0.0%				12.2%
11	1	40	0.4%	0.5%	4.1%	6.4%	11.0%	17.4%	8.3%	20.0%	0.0%					3.9%
12	0	62	0.0%	7.4%	8.2%	13.7%	28.6%	38.7%	63.6%	0.0%	0.0%					15.7%
13	0	23		7.0%	2.2%	14.3%	26.7%	23.1%	25.0%	40.0%	200.0%					12.8%
14	1	221	4.3%	8.2%	15.1%	19.4%	18.2%	21.9%	55.6%	11.1%	33.3%	0.0%	50.0%	33.3%	0.0%	14.6%
15	2	138	6.7%	11.2%	18.4%	22.2%	30.8%	29.0%	44.4%	100.0%	0.0%	0.0%				18.7%
16	3	84	7.1%	9.1%	11.9%	16.9%	16.2%	21.4%	16.7%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%			13.1%
17	0	1	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%				0.0%			1.2%
18	1	40	7.1%	4.9%	11.3%	22.2%	26.7%	18.2%	25.0%	0.0%						12.5%
19	1	185	20.0%	30.9%	41.5%	44.7%	24.2%	48.3%	50.0%	60.0%	0.0%	0.0%				36.7%
20	1	107	20.0%	10.2%	24.5%	29.2%	27.0%	88.9%	75.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%		21.4%
21	0	21		1.5%	6.6%	8.9%	23.8%	20.0%	33.3%	0.0%						6.4%
全県	56	1,999	4.4%	6.9%	11.6%	16.6%	20.8%	28.7%	33.1%	33.3%	28.1%	9.1%	42.9%	50.0%	0.0%	13.1%



※ 組合4及び17は除籍理由のデータが存在しないため図に反映せず。

表11 低能力により除籍された検定牛の組合別状況

組合	低能力除籍頭数 (乳量記録あり) (頭)	除籍乳期 個体乳量 (kg)	除籍乳期 日平均乳量 (kg/日)	(参考)各組合 平均検定乳量 (kg/日)	差 (kg/日)
1 葛巻(葛巻)	31	8,944	27.1	29.1	-2.0
2 金ヶ崎(金ヶ崎)	86	8,558	24.2	26.8	-2.6
3 金ヶ崎(奥州・大船渡他)	21	11,938	31.5	30.2	1.3
4 南部(雫石)	-				
5 久慈	60	16,859	37.8	31.9	6.0
6 花平	20	10,146	25.6	27.2	-1.6
7 葛巻(江刈)	17	11,418	24.7	28.1	-3.4
8 磐井	5	9,078	16.6	24.6	-8.0
10 岩中酪(八幡平・滝沢・盛岡他)	14	7,448	30.3	28.5	1.8
11 岩中酪(二戸・岩手・盛岡他)	142	9,543	38.6	33.6	5.0
12 八幡平(松尾・寄木)	0			29.5	
13 遠野	8	8,581	25.5	30.4	-4.9
14 奥中山	108	10,123	25.8	30.8	-5.0
15 八幡平(その他)	2	10,104	27.8	28.2	-0.4
16 宮古	53	7,138	27.5	27.0	0.5
17 南部(滝沢)	-				
18 東部(玉山)	13	6,900	25.6	29.9	-4.3
19 花北	11	7,742	36.3	32.2	4.0
20 東部(岩手他)	31	11,792	31.4	30.7	0.7
21 九戸軽米	0			27.6	
全県	622	10,093	30.0	29.5	0.5

※ 乳量記録のない組合は、データ反映せず

(参考)

令和8年度県単事業のお知らせ

いわて酪農の郷総合対策事業

（乳用牛群総合改良推進事業）【一部新規】

1 事業の趣旨

酪農の生産性向上に向け、乳用牛群検定データを活用した指導や酪農ヘルパーなど外部支援組織における経営発展に向けた取組を支援するほか、新たに生乳生産量向上のための飼養管理モデル実証を実施します。

2 事業内容

(1) 乳用牛群検定データの収集・分析及び指導

ア データの集計・分析

情報分析センター（畜産研究所）において検定組合が収集したデータを酪農家指導に活用しやすい形式に集計・分析

イ データの活用・指導

情報分析センターが作成した分析データを活用し、農業改良普及センター・振興局等において酪農家の繁殖管理・飼養管理等を指導

(2) 外部支援組織の経営発展【新規】

ア 専門家の派遣

経営発展に向けた連携に取り組む酪農ヘルパー等外部支援組織を対象に、経理や労務管理を支援するため、税理士等の専門家を派遣

イ 異業種連携モデル実証

飼料収穫作業が集中する夏季の労働力を確保するため、コントラクターと異業種との連携による人材融通モデルを実証

(3) 生乳生産量向上推進【新規】

ア 暑熱ストレス軽減飼養管理モデル実証

生乳生産量の向上に向け、中規模酪農家を対象とし、地域の環境条件に応じた暑熱ストレスの軽減に向けた飼養管理モデルを実証

イ 新規就農者等のネットワーク構築

新規就農者や若手酪農家を対象として、酪農経営や飼養管理技術のスキルアップ研修会及び個別課題の解決に向けた意見交換会を開催

3 事業実施主体

県

4 予算額

5,738 千円（令和7年度当初 4,916 千円）

5 担当課

畜産課 振興・衛生担当 TEL 019-629-5725

■ 発 行 ■

岩手県

盛岡市内丸10-1

TEL 019-629-5725

■ 協 力 ■

乳用牛群検定情報分析センター